Contents

支部長挨拶	P2
とくべつきこう	P3-5
まんゆうき	P6-10
おしえて	P11-13
あのころ	P14-16
とりせつ	P17
とぴっくす	P18-20
もよおし	P21-24
わさもん	P25
協力会つうしん	P26
委員会報告	P27-32
地域会活動報告	P33-44
編集後記	P45

公益社団法人 JIA
日本建築家協会九州支部

BULLETIN Kyushu BRANCH

The Japan Institute of Architects Kyushu branch

SEP.2023

九州で活躍する建築家のための情報誌

支部長挨拶

松山　将勝（九州支部長）

残暑も日ごとに和らぎ初秋の季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。街に出ますとマスクが解禁された事を実感しますが、コロナが拡大している状況との情報もありますので、会員に皆様におかれましてはくれぐれも安全にお過ごしください。

一昨年から準備を進めておりました「九州建築新人賞」の応募が始まりました。

支部長を拝命してから、九州全域の若手建築家との建築議論を精力的に行ってきました。私が30代の頃は、若き建築家が手掛けた建築の見学会が頻繁に開催され、先輩方に客観的視点で批評してもらう事で建築家としての技量を磨いていく時代でした。私自身も手掛けた建築が完成する度に見学会を開催し、そこで得た多くの批評が糧となり育ててもらった建築家のひとりです。思考した建築の実物を見せ、さまざまな視点から批評される事は自身の至らなさを痛感し苦しいものです。ただそれ以上に学びや発見が多く、次への原動力になります。私自身が成長させてもらった当時の批評の場は、現在の若手建築家たちが求めているのか。その事を知りたいと思い始めたのが支部長漫遊記の旅でした。

先日の佐賀で開催された支部長漫遊記が最終回でしたが、九州全域の総勢37名の若手建築家との議論を続けてきて実感した事は、それぞれの地域には能力の高い若手建築家がたくさんいるという事でした。そして、建築の議論や批評の場を彼らが必要としている事も確認できました。こうした対話を重ねていく中で、JIA自らが本気で建築を議論する場を創出し、未来の九州建築界を牽引する人材を後押ししていく事はJIAの大きな使命であると思い至り、「九州建築新人賞」を創設させていただきました。この賞は表彰するだけでなく、応募作品をとおして建築の議論を巻き起こす事を目的としています。審査員には九州を代表する建築家の塩塚隆生さん、田中俊彰さん、柳瀬真澄さんにお引き受けいただきました。先日、審査員3名をお迎えし、「九州の建築の未来を考える」と題したシンポジウムを開催し、公開の場で批評性を高める事が重要である。と大変貴重なご意見をいただきました。確かな批評の場として本賞を九州の若手建築家の新たな評価軸として育てて参りたいと思います。会員の皆様には、後ほど協賛金のご依頼が届くと思います。九州建築界の未来のために、何卒お力添えを頂ければ幸いです。

11月9日(木)～11日(土)には、JIA建築家大会2023東海in常滑が開催されます。六古窯のひとつで焼き物の世界的産地として知られた常滑は、産業構造の変革により役割を終えた煙突や窯が残されている歴史的都市です。昨年、常滑に訪れた際に堀口捨巳氏設計の陶芸研究所を見学しましたが、今でも衰えない素晴らしい姿に深く感動しました。2日目の11月10日の夜は、九州ナイト(九州支部会員の懇親会)も予定しています。参加登録の締め切りが迫っておりますので、登録をお済でない方は大会のHPからご登録ください。

前号でもお伝えしましたが、来年の全国大会は大分の別府市で開催致します。来年の全国大会のPR活動も兼ねて、多くの会員の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。また、大会ウィークと称して今月よりオンラインイベントが数多く開催されます。プログラムはJIAマガジンにも掲載されていますので、そちらもぜひご参加ください。10月16日(月)には、「資格制度のこれからを考える」と題したシンポジウムがオンラインで開催されます。資格制度(登録建築家)は今、大きな転換期を迎えようとしています。これまでの歴史を踏まえた上で、これからどのようにこの問題をシフトし未来に向けて踏み出していくべきか。会員全体で議論していかなければならない問題です。これからの方向性を示す重要なシンポジウムですので、ぜひご参加ください。

9月21日(木)～23日(土)には、JIA九州建築塾が開催されました。建築塾は建築設計事務所に勤務する若手所員を対象とした教育・研修事業です。今年は鹿児島地域会の主導で指宿市で開催致しました。九州全域から１9名の塾生が参加し4グループに分かれ、「指宿を建築にしろ」という課題に取り組みました。

学生時の建築を自由に発想していた頃からすると、実務で学ぶ建築は技術の習得やコストの問題がつきまとい、自由な発想が奪われ建築への情熱が低下し職を離れていく人も少なくありません。道半ばの塾生が今一度あの頃の自由さを呼び戻し、建築はもっと自由で可能性が広がっている事を再認識しモチベーションを高めてもらうこと。そして同じ時代を歩む仲間づくりがこの建築塾の目的でもあります。今回の講師には、建築家の高崎正治さん、ランドスケープアーキテクツの三谷徹さん、ひと・ネットワーククリエイターの山下裕子さん、鹿児島地域会宮崎会長の4名に務めていただき、講師の方々の講演会も交えた研修は、参加した塾生にとって大変貴重な経験であったと思います。講師の皆様には、3日間に渡り熱く指導していただきました事を、この場を借りて心から感謝申し上げます。また、今年度の建築塾を企画運営いただきました鹿児島地域会の関係者の皆様には重ねて御礼申し上げます。

最後になりますが、秋から年末に向けてイベント事も増えていく時期になりますが、会員の皆様におかれましては、体調など崩されませぬよう、くれぐれもご自愛ください。

九州建築新人賞に期待すること

塩塚　隆生　（大分地域会）
九州建築新人賞　審査員

国内のいろいろな地域にたくさんの建築賞があるという状況は、世界的に見ても珍しいといえます。一方、賞が建築デザインの議論の場、批評の場となっているのは少ないようです。各賞にはそれぞれに評価基準があり、全てがそのような場になる必要はないのですが、ここ九州で少し長く設計に携わってきた者としては、物足りなさやその必要性を感じてきました。また、現在の30～40代の建築家の中に同じ思いを持っている方がいることも肌感覚としてあります。この新人賞がそのような場に少しでも近づければと思っています。

建築の賞に応募することについて考えてみました。受賞することの喜び、名誉は得難いものですが、もう少し深い部分でわたしたちは自らの建築を「見る」ために参加しているのではないかと思っています。夭折の画家「中園孔二」は、「それを見ているのが自分ひとりだったとしたらそれは見ていることにならない。二人以上の人間が同じひとつのものをかかえるということが、それを「見る」ということだ」という言葉を残しています。「それ」を「建築」に置き換えてみると、自らの建築を一緒にかかえてくれる他者（ここでは審査員であり時には他の応募者も）が現われることで本質的に「見る」ことができると言えるかもしれません。そこでは建築に向けられた言葉（批評）によって、自らの建築が新たに立ち上がって見えてくるはずです。

審査での私の視点は、その建築がテーマ性をもってつくられているか、そしてここ九州の抗えない地域性を乗り越えようとするアプローチがあるか、ということです。一方で、応募していただいた全ての作品から今の九州における建築デザインの有り様、見取り図のようなものが描けるのではないかという期待も持っています。

田中　俊彰　　（福岡地域会）
九州建築新人賞　審査員

九州で若手建築家の登竜門としての新人賞を創設したいとのことで、今回、審査の立場でお手伝いをすることをお引き受けしました。

九州内には、真摯な努力を重ねている多くの若手建築家が存在しています。その中には、社会に対して職能を拡張していこうとする人たちもいます。私にとってそのような建築家の作品に出会えることは、貴重な体験であると考えています。

昨今、数多の建築の新人賞がありますが、あえてここ九州で所在地も限定されたこの場所の中で新人賞とは、どのような人がふさわしいのだろうかと考えさせられます。住宅をはじめ多種多様なビルディングタイプの力作がエントリーされると思われます。作品は、その背景にある様々な条件を読み解いた結果としてリアルに表現されます。創作のための活動のプロセスや、また社会との繋がりの中で建築家としての関わりかたもその中に刻まれているのだと思います。九州という地域の文脈の中で、建築の新たなありようを問うために、今の若い人たちは果たしてどのような手法を持って形に還元し、作品として表現しているのでしょうか。

しかしそれらを見極め新人賞にふさわしい作品を取り上げることができるかは、審査する側に委ねられています。改めて、重大な役を引き受けたものだと痛感しています。とにかく応募された資料をまずは拝見し、自身の設計活動も自問しながら、諸々のことを再考したいと思っています。若い人たちの思いのこもった多くの作品の応募があることを期待しています。

柳瀬　真澄　（福岡地域会）
九州建築新人賞　審査員

この度はJIA九州支部が若手建築家の優れた建築作品を顕彰する「九州建築新人賞」を発足したことに、心より賛同し、この賞が若手建築家の目標となる価値ある賞となることに期待いたします。同時に審査員の一人に任じられましたことの責任の重さも実感しております。

新人賞は、一般的な建築賞とはまた違った意義を持つものでありましょう。それは、必ずしも建築の総合的な完成度を求めるのではなく、例えば若さ故の常識を突き抜けた個性的な発想、デザイン性、空間のクオリティーであったり、建築が新しい時代を映し出すものとすれば、その切り口の鮮やかさについて・・・と、様々な視点があると思いますが、私自身は可能な限り自分のこれまでの物差しを捨てて、応募建築の考え方と空間性に向かい合いたいと思います。

現地審査においては、応募者から現地にて直接作品の説明、今後の社会における抱負等を聞けることも楽しみにしています。

さらにこの「新人賞」の趣旨である、若手建築家を「発掘し」、彼らによる「活発な建築討論を生み出す場になること」のみならず、若手ではない我々（年を経て経験を積んだ分、頭が固くなった者達）が、彼らの新しい優れた作品に触れ、刺激を受けることによって、建築の未来にある多くの可能性に気づき、九州の建築界の総合的なレベルが上る機会になることをも期待しています。

今回は九州建築新人賞の3名の審査員に「九州建築新人賞に期待すること」をご寄稿いただきました。

福岡地域会9月例会「九州の建築の未来」に参加して

智原　聖治　（福岡地域会）

JIA福岡地域会9月例会は、「九州の建築の未来」と題して、JIA九州支部が創設した「九州建築新人賞」の創設記念講演として行われた。登壇者は、本賞の審査員でもある、建築家の塩塚隆生氏（塩塚隆生アトリエ）、田中俊彰氏（田中俊彰設計室）、柳瀬真澄氏（柳瀬真澄建築設計工房）の3名で、モデレーターとして松山将勝氏（松山建築設計室）を起用し、本賞の意義や目的について、トークセッション形式で行った。まず、松山氏は３者を審査員として選定した理由について言及された。共通点として３０代前半ですでに建築雑誌の誌面掲載や公共コンペ獲得など華々しいデビューを飾ったことと、そして、今日まで精力的に作品を作り続け、数々の賞を受賞し、九州建築界を牽引していることが挙げられる。本賞の募集要項には、「若き建築家の登竜門として新たな評価軸となり、これからの九州建築界をリードする建築家を輩出してゆく事を目的としています。、、、、、」とあるように、若手建築家（４９歳以下）を対象としており、審査員を務める３者はある意味、若手建築家としての登竜門をくぐり、リードしてきた存在であるが故、審査する器としては十分すぎるものと判断し、審査員を引き受けてもらったことを告げた。３者がそれぞれに審査に対する評価軸を述べ、ディスカッションしていく中で、審査の在り方についての議論が成された。本賞の募集要項にある、「、、、、、そして、九州の若手建築家の議論や交流を育む場になる事も期待しています。」ということに対して、塩塚氏は「議論を育むには、作品に対する「批評性」が必要ではないか」と問題提起をした。賞の審査結果だけを告げるのでは無く、どのように評価されたが重要で、例として、審査の過程も公開し、そこで当事者と議論を交わし、作品の本質を理解することで、「批評性」が生まれ、次へと繋がるものへ昇華していくと。田中氏と柳瀬氏もそれに共感し、今後の審査方法に対する検討課題となった。「九州建築新人賞」は他の賞とは違う価値を持ち、若手建築家が九州、そして日本を代表する建築家として歩む架け橋となることを期待する。

上写真：9月例会の様子

右写真：2023年度応募要項HP　QR

左写真：作品応募フライヤー

支部長漫遊記IN佐賀

白濱　宗德　（佐賀地域会）

２０２３年９月１５日に佐賀のTOJIN館にて会員７名、非会員３名で開催され、５人の登壇者様の建築のへの思いを語って頂き普段、自身の建築について語り合うという状況がない中で、支部長と建築家のみんなで、批評、議論し、私自身も刺激を受け、貴重な時間を過ごす事ができました。

登壇者：①【宮﨑　洋(M.DESIGN　STUDIO)】／②【古賀　隆寛(㈱ひかる建築設計企画)】／③【川崎　康広(㈱川崎空間研究所)】／④【松本　孝充(松本設計)】／⑤【山口　修(山口修建築設計事務所)】

【野中地域会長　挨拶】

漫遊記は３年前に始まり、ようやく佐賀での支部長漫遊記を開催できたことでほっとしております。今回は会員から２名、非会員から３名で登壇して頂きます。色々な建築談義になるように楽しみにしております。

【松山支部長　挨拶】

支部長漫遊記はこれまで７地域会を廻り、今回の佐賀が最後となります。来年の２月頃に支部長漫遊記に登壇した37名の若手建築家に声をかけ、集合形式で建築討論の総括をしたいと思います。

また今月より九州建築新人賞の応募が始まりましたので、是非応募をしてください。

支部長漫遊記は、本気で建築を議論し語り合う場です。皆さんの作品を通して熱い議論を期待しています。

【宮﨑　洋(M.DESIGN　STUDIO)】

夫婦二人で小さな設計事務所として活動しております。

・なじむ家（木造２階建　一戸建の住宅）

なじむというのは、今までの設計の中でお客様に「服を着るような感覚で、体になじむ家だね」といわれたのがきっかけということもあり、今回のお施主様も共感頂き、ご依頼がありました。静、動、施主の趣味であるｱｸｱﾘｭｰﾑを取り入れた間取り、庭との景観、隣との軒高、水害対策への工夫した高さ計画に配慮し、施主様及び地域になじむ家になったと考えます。

・ふじかけこども園（鉄骨２階建　幼保連携認定こども園）

古いお寺が経営する境内に建つ幼稚園で、老朽化に伴い旧園舎（北、南園舎）を解体し、同場所に一つにまとめる計画です。周辺は住宅も多い城下町で高さにも配慮しました。配置計画は本堂及び既設のＣＢ塀を活かしたアプローチ計画から主要出入口、職員室、食堂棟、保育室とした動線とし、トイレは建物の中心に配置し子供たちが自由に利用でき、かつ明るい場所に計画しました。園庭と本堂をつなぐイメージでカーブさせた外観としました。２階は保育室、子供図書館、屋上園庭、水害での自主的な避難場所も兼ねる計画としました。　木のぬくもりを感じて頂けるように使える範囲には木を多く使用しました。

宮崎氏プレゼンの様子

＜松山支部長＞

宮崎さんの２つのプロジェクトを拝聴させて頂き、限られた条件に対して難しい課題を上手に整理され、平面計画をまとめていくことが得意な建築家だと思います。特に、こども園の配置計画は本堂との関係性を重視し、平面を湾曲させる事で豊かな外部空間を創出している点は本当によくできていると思います。ただ建築単体で言えば鉄骨造の利点を活かしてダイナミックな空間を展開する可能性は模索するべきだったのでは。という点と玄関エリアの外観が全体とは異なる表現がされていて、ここだけ増築したかのような不調和を感じたので、その点は改善する余地があったかと思います。

なじむ家は、建て主の未来のライフスタイルまで考え、周辺の住環境になじむように計画されている点は非常に好感を持てます。２つのプロジェクトとも共通するのは、平面計画は建て主の要望に従い、実に見事にまとめているものの、それが建ちあがった時の姿が普通に見えてしまうのは、平面計画が優先するが故の課題なのかもしれません。断面や構造計画を等価に捉えながら、建築を創造していく事で建築の可能性が見えてくる。そうした設計のプロセスを歩んでみる事も大切です。

【古賀 隆寛㈱ひかる建築設計企画】

父である所長と共に５人の所員で主に業務の８割は公共建築物を主体として活動している事務所です。

・大和特別支援学校増築工事（ＲＣ造　２階建　学校）

支援学級不足における対策とした教室棟の増築工事です。周辺環境としては背景に脊振山系を望み、自然豊かな環境で山との調和をコンセプトとして検討しました。均等に配置した柱型、梁型のスパン、背景に溶け込むように片流れの屋根とし、外壁については発砲系の型枠材を採用し木目調としました。将来を担う生徒の若々しさとして、柱、梁には黄色、またポイントカラーとして草花を意識した黄緑としました。内部は第二サテライトとした第二職員室を計画しより近い位置で生徒を管理できるようにしました。内装は腰壁に杉板を使用し全て県産材としております。

・鳥栖工業高校レスリング場（Ｓ造　２階建　体育館）

佐賀県スポーツピラミッド構想（SSP構想）をもとに計画されたもので、短期的には2024年佐賀県で開催される国スポでの優秀な成績を収める為の選手育成、長期的にはプロアスリート育成を目的とした施設であり全国的に見ても校内に専用のものとしては珍しい施設であるかと思います。

外観は既設校舎のサイズ感を意識した形状、色彩としてはSSP構想でのイメージカラーである濃紺をベース色としました。内部計画は２階にレスリング場を配置し高さを確保しています。内装は支援学校と同様に腰壁に杉板を使用し全て県産材としております。

古賀氏プレゼンの様子

＜松山支部長＞

古賀さんは３４才という若さで、公共工事の設計をされている事にまずは驚きました。私は公共工事の経験が無いのですが、苦言を言うならば建築に若さを感じない。平面計画や構造計画など昔の時代の設計手法でやっている感じを受けます。私たちの時代は、要求されるプログラムの適正な均等スパンを徹底して教育されましたが、古賀さん時代はもっと自由に建築を発想する教育を受けてきていると思います。若いのだか

ら型にはまらず、自身の建築家としての可能性も含めて、自由な発想で自己研鑽を続けてほしい。

お父様が創業された設計事務所の後継者というプレッシャーもあると思いますが、もっと暴れてください（笑）これから期待していますのでがんばってください。

【川崎 康広㈱川崎空間研究所】

市内に事務所を構えて活動しております。色々頼み事も断れない性格のため、肩書もかなり増えておりますが、おかげさまで仕事に結びつく機会にも恵まれ現在に至っております。住宅や木に関わった仕事に関わってきて地域資源を使った資源、地域の活性化を大事にして仕事に取り組んでいます。

・太良町森林組合　製材所（W造　平屋　工場）

森林組合の理事長より製材所をつくりたいとのことで県の林業課を通じて依頼があり、木の業種なので木造で計画しました。打合せを重ねるうちに、佐賀は人工林の密度が一番高い県であり、杉、ヒノキの質が良いが、現在戦後の植林から70年経過し木材を使っていく必要があり、二酸化炭素吸収する新しい植林をしないといけない現状であります。SDGsの考え方も含め、地産地消の資源の循環の重要さを感じ建築家として出来ることを考え仕事をするようになりました。太良町森林組合は必要な木材のみ伐採、自然乾燥を徹底した組合であります。

・地区公民館（W造　平屋　集会場）

地域の班長の役職でもあり、自治会長から今の公民館はＳ造の１階ピロティ２階公民館であり上り下りがないものに改修できないかという相談ありました。既設の公民館は耐震性に問題が多々あり改築を含め検討することになりました。周囲はＲＣ造マンションが多く公民館は木を使用したものにできないものかと思い木造を軸に考えました。先程の太良町森林組合に協力頂き、地元の大工を連れて山へ行き木取りから打合せ、３カ月の天然乾燥後の製材の工程を踏み計画し、木材供給までに約半年は要しましたが、地元の木、地元の大工が建て、地元の人が使うことができた建物を完成する事が出来ました。中心市街地であり斜線制限、防火制限等々の法制限、住民の方々の要求整理取りまとめには大変苦労しました。

・MORE WAN（W造　２階建　災害救助犬訓練施設）

大町町の山の集落の一角の斜面に建つ施設です。細長く計画すると動線が長くなり、使い勝手に配慮して、斜面、採光、通風、耐風、各主要室、犬舎、ドッグラン位置を検討計画した結果、Ｌ型から最終的にはWの形をしたものになりました。建物名にあるようにWANと屋根の形がWとなり思わぬ偶然が重なった次第です。構造は木造を軸として地区公民館の様に地元の木を採用したかったが、ウッドショック及び工期優先の為、多量の木材ストックが無理であった為、泣く泣く外材を使用しました。また設備に地中熱も採用したが思ったよりは効果が感じられず施設職員も不満があるようで今後の課題となっております。九州での災害が起こった場合ここから出動する重要な拠点となる施設を経験させて頂き大変勉強になりました。

川崎氏プレゼンの様子

＜松山支部長＞

公民館のデザインは実にかわいい（笑）このプロジェクトで最も評価したいのは、地域木材を使用し地産地消の観点で、人や物をつなげていく活動をされている点です。なかなか体力のいる活動ですが、建築家

としてとても重要な活動です。今後も川崎さんのライフスタイルとして続けてほしいと思います。

MORE WANは、複雑なプログラムを無駄なく上手にまとめていると感じました。この建築は屋根の形状が印象的ですが、あえて複雑に構成している事が内部空間には見えてこない。平面計画と屋根の形状を何度もスタディする事で、内部空間がどのように展開されるかを確認しながら木造の骨格を定め、屋根の形状にフィードバックしていく事も必要だと思います。２つのプロジェクトを発表していただきましたが、図面の情報が足りなかったので写真だけでは分からない部分もありますが、従来の建築家のスタイルに捉われず、さまざまな活動をされている川崎さんの今後がとても楽しみです。

【松本 孝充(松本設計)】

鳥栖市で設計事務所を営んでおります。

・浦志の家（W造　平屋(ロフト付)　一戸建ての住宅）

敷地は糸島市中心部に位置した小さな住宅です。家族構成が５人ですが、北側隣地に両親の住まいがあり、また部屋も余っている為、両親の家を流用しつつ、相互に行き来が出来る配置計画とした。内部は大きなワンルームの様な空間構成とし両親との交流の場とした関係性を重視しました。既設の杏の木を活かしつつ南側の開口からの眺めにも配慮しました。

・北山の家（W造　２階建　一戸建ての住宅）

築６０年の住宅のリノベーション案件です。北山を背に西日、南側に床の間、仏間が配置され、全体的にうす暗い古民家であり、冬の寒さは耐え難いものがある住まいでした。施主様の要望は寒さの低減、あるものは生かすという２点でした。建物の断熱化、及び既設の薪ストーブを中心にLDKを配置し人が集まる空間構成としました。新旧の部材が調和し心地よい住まいになったと思います。

＜松山支部長＞

松本さんは、浦志の家で福岡県美しいまちづくり賞の大賞を受賞されている実力派ですね。30代の若さで全く隙のない建築をつくっている所に少し気持ち悪さを感じますが（笑）でもこのレベルの完成度は相当な鍛錬を積み上げてきた成果と言えます。写真主体の発表でしたのでもっと図面が見たかった。図面を通してその建築家がスケールをどのように捉え決定しているのか。素材の選定とその扱いに至るまでのプロセスなど、その思考を語る事で松本さんの建築家像が見えてくる。これから非常に期待される建築家ですので、歳を重ねる毎に凄みを増していく建築家になってください。今からの１０年間が建築家として確立されていく大切な時期になります。批評を受ける事も大事ですので、完成したら多くの建築家たちに見てもらう機会もつくるべきです。

松森氏プレゼンの様子

会場の様子

【山口　修(山口修建築設計事務所)】

鳥栖市に事務所を構えて活動しております。

・こんどう皮膚科（ＲＣ造　２階建　病院）

鳥栖市のシンボル的になるようなコンセプトをもって計画しました。もともとこの土地に父親、兄が所有する３階建ての持ビルがあり、1階は父兄で内科経営、3階に弟が皮膚科を経営しており、皮膚科の患者が多い為、建物をつくり変えたいということで依頼がありました。計画の上で現在の駐車台数を減少したくないという要望もあったため、最初からピロティを意識し、建物を周回するような駐車配置計画としました。内部計画は駐車同様、患者が各診察室周囲をまわる動線とし、施設関係者の動線は中央に集中し各診察室へはドクターが直接動く動線とし効率を重視しました。診察室には自然光を取り入れ、主要出入口であるメインエントランスは宣伝も兼ねて贅沢な空間構成としました。

・なかしま矯正歯科医院（木造　平屋　病院）

矯正、美容を主な機能とした歯科医院で施主様から高い天井、長時間過ごしても苦にならない空間づくりとしたいとの要望でそのほかは自由な設計でやらせて頂きました。内部は治療室が並んで天井高く間仕切りは低く抑えた計画としました。

＜松山支部長＞

山口さんはNKSアーキテクツの出身なんですね。こんどう皮膚科はその影響を受けている作品であると感じました。駐車場の台数を確保しなければならない課題をピロティ形式で解決するのは特別な事ではないが、その構造形式が平面と連動し、医療の実用性を実に見事に解いているレベルの高い建築です。私も医療施設の設計が多いのですが、回遊性をもたせた動線計画によって医療側のオペレーションも良く考えられています。なかしま矯正歯科医院も、一見不思議な形態にみえるものの、平面や断面も非常にシンプルにつくられている。これから山口さん自身のオジリナリティを期待しています。

登壇後は食事、飲み会ながらの建築の今後について様々な視点からの話題に盛り上がり、時間も忘れ4時間を優に超え、夜の２２時にお開きとなり、終了しました。

会場の様子

山口氏プレゼンの様子

松山支部長と5名の登壇者

「私にとっての建築」を考える力

石塚 直登　（北福岡地域会）
九州工業大学大学院 工学研究院
建設社会工学研究系建築デザイン研究室 助教

2018年12月に九州工業大学へと着任させていただき、5年がたとうとしています。まだ研究といった面ではまとまった成果もありませんので、今回は教育活動の面で、何を考えてきたかを改めてまとめさせて頂きました。その考え方には、自身が受けてきた建築教育が強く影響していることを実感しました。

建築を目指すまで

私が建築デザイン分野を志したのは、中学生のころ、TVでガウディの特集を見たことがきっかけです。建築物には設計者がいて、そこには美的な観点も、構造的な観点もあるということを知り、建築の統合性にあこがれを抱くようになりました。

そして、最も近くの国立大学であった横浜国立大学は、建築の評判が非常に高いと知り、受験をすることになります。楽観主義の私は、近くの国立大学なら受かるだろうと何となく思い、見事に落とされ、浪人を1年経て入学することになります。

建築家・北山恒のアジテーション

入学した2006年当時の横国では、建築デザイン分野を建築家の北山恒さんが牽引されていました。（後に小嶋一浩さんに、「建築家を先生と呼ぶな」と言われましたので、「さん」付けにさせていただきます。）北山さんは、入学後最初のオリエンテーションで「建築にはバイトしている暇も、サークルや部活もしている暇はない。4年かけて自ら動き、主体的に学んで、やっと建築の入り口にたどり着く」というような主旨で、学生をアジテーションしました。建築は教えられるのではなく、自ら学ぶのだということをガツンと強烈に印象づけられたのを今でも覚えています。突き放した態度とは裏腹に、学ぼうと思えば、どんどん学んでいくことができる環境が用意されていました。24時間開放の製図室（北山さんは製図室を「アジール」と表現しました）、たくさんの建築家との出会いの機会、時間制限はあってないようなエスキスと講評会などなど。教員になって当時を振り返ると、並大抵ではない教育環境です。北山さんはさまざまなことと闘いながら、「アジール」を勝ち取っていたのだと思います。

ハイブリッドな建築思考—多様な建築家との出会い

そこで、多くの建築家に出会いました。山本理顕さん、飯田善彦さん、西沢立衛さんといった常勤の建築家に加え、野沢正光さん、田井幹夫さん、槻橋修さん、下吹越武人さんといった非常勤の面々、当時は設計助手だった三浦丈典さん、末光弘和さん、日野雅司さん、西田司さんといった若手の建築家が多くいる環境でした。日々、建築について、そしてそれ以外の多くのことについて議論が飛び交うスリリングな環境でした。

とにかく建築を見に行くこと、旅をすること、街に出ること、議論をすること、ものを作ること、本を読むこと、映画を見ること、無駄なことをすること、といった様々な言葉をもらいました。当時はそれを真に受けて、とにかく色々とやってみる、という生活をしていたように思います。

私の学部在学中には、横国の建築デザイン分野の大学院が独立し、Y-GSA（Yokohama Graduate School of Architecture）が立ち上がります。Y-GSAは、半期に1スタジオ、2年で4スタジオをパスすれば修了というスタジオ制の大学院です。各スタジオには常勤のプロフェッサーアーキテクトと設計助手の若手建築家がおり、そこでも学生を含めて、さまざまに議論を交わしていきます。私が入学したのは、またしても1年の院浪を挟んで、2011年春でした。この年、山本理顕さんにかわり、小嶋一浩さんがY-GSAに着任されました。その後も、乾久美子さん、藤原徹平さんがプロフェッサーアーキテクトとして着任され、設計助手も大西麻貴さん、萬代基介さん、畝森泰行さん、平井政俊さんといった方と出会うことになります。

こういった、大学から大学院の環境の中で、「これだけ多くの建築家と、あなたとの違いは何なのか？」ということを強く問いかけられたように思います。「n番目に建築家となるあなたのアイデンティティとは何なのか？」「私にとっての建築とは何なのか？」と。この環境によって、誰かの思想を強く受け継ぐのではなく、ハイブリッドな建築思考を持つに至ったと思います。

建築への不信感／信頼感　東日本大震災を経験して

一方で、大学院進学は2011年3月に東日本大震災が起きた直後でした。2011年春に入学した私は小嶋一浩さんと、ArchiAidの活動に関わることになります。ArchiAidは、東日本大震災の復興支援のための建築家のネットワークで、ネットワークを通して多くの建築家が大小さまざまな復興支援を行いました。最初の関わりは、2011年夏に宮城県石巻市牡鹿半島で行われた調査ＷＳで、大小20程度の集落に、15チームほどの建築家・学生が調査に入り、被害の基礎調査と復興提案

画像１　被災した公民館でのヒアリング

を行うというものでした。（画像1）この活動を通して、さらに多くの建築家たちに出会います。千葉学さん、渡辺真理さん、塚本由晴さん、貝島桃代さん、城戸崎和佐さん、門脇耕三さん、福屋粧子さんや、建築計画の小野田泰明さんたちです。そして、それまでは存在を意識していなかった、行政の方々、土木コンサルタントの方々、そして何より住民の方々と出会います。結局、私はインターンシップで半年間仙台に住みながらArchiAidの活動に従事することになり、博士課程までを通して集落の高台移転に関わることになります。

復興の現場で直面したのは、「建築家が信頼されていない」というショッキングな現実でした。牡鹿半島の場合は、支援活動が営業行為とならないように、錚々たる建築家たちが「建築を建てることを目標としない」と自らを規制して地域に入りました。建築の敗北を見たように思いました。

一方で、建築的な思考で復興を考えることは、少しでも復興を良くする、という強烈な思いを建築家たちから感じた期間でもありました。博士課程に進むことになったのも「本当に少しでも良くなったのか？」を明らかにしたかったからです。Y-GSAの掲げていたマニュフェスト「建築をつくることは、未来をつくることである」という言葉を、これほど強く意識し、そし

て同時に疑いもした時期はなかったように思います。

建築の与条件自体の創造

高台移転の宅地設計をしていく中で、小嶋さんは幕張ベイタウンでのデザインガイドライン作成の話などを引き合いに、良い宅盤整備が、良い建築設計のドライビングフォースとなると、繰り返しおっしゃいました。建築の与条件自体の創造が、建築自体を豊かにするということです。私はその考え方に興味を持って、与条件を創造していく、プレデザイン的な部分に興味を持ちました。土木分野もある九州工業大学を選んだのも、この影響が大きいと言えます。

学生の「建築」の学びへの入口

振り返ってみると、自身は学ぶ環境にはものすごく恵まれていたように思います。主体的に行動していくとっかかりが常に用意されていました。

それらの経験から、私が現在の教育で重視しているのは、主体的な学びに接続するための環境です。「何かそれ知っている」という浅く広い知識のインデックスの提供と、主体的に考えられる実施の場の提供です。知識のインデックスとしては、不足していた建築の必読書を読む場を設けています。数年の蓄積の末、

画像３
研究室の学生が設計・制作した受付カウンター（九州工業大学GYM LABO）

今年度は研究室で1年生向けのブックガイドを作成できました。外部の建築家のレクチャーや講評の機会も少しずつ増やし、学生が知っている建築・建築家の幅を広げていくことを意識しています。（画像2）

実施の場については、幸いここ数年は、学内外で機会を多く設けられています。大学内の家具の設計・制作（画像3）、民間の建築の改修設計と施工、学内の改築・新築（画像4）まで幅広く扱えています。

今後の課題は、私自身が学生にとっての参照項の一人となるようなものを作っていけるか、というところだと思います。「建築の与条件自体の創造」とそれによる「良い建築」の実現に取り組んでいきたいと思います。

画像2　2022年度から開始したバーティカルレビュー／佐々木慧さん、大庭早子さん、河嶋正樹さんによる講評

画像４　研究室で基本計画を担当した学内の新築施設（環境デザイン研究室と共同）

JIA黎明期創設時の記憶と体験

豊川　裕子　（北福岡地域会）

■はじめに

私にとっての「あの頃」は、亡き夫、建築家 豊川周坪と共に闘った本会黎明創設時の体験をおいては語れません。当時、九州支部の福岡地域会や北福岡地域会の建築家仲間と喜怒哀楽を分かち合い育んだ絆を、私たち夫婦がまだ30代だった頃の思い出とともに振り返ってお伝えしていきたいと思います。それは心に深く刻まれた感動の連続でした。

豊川オフィスにて、建築を語り合う豊川夫妻

■恩師・建築家 丹下健三先生からの要請

1979年、私たち夫婦が祖父の代から続く父の設計事務所を継ぐために東京からUターンしてまもなく、夫の恩師 丹下健三先生から「全国の建築家のために新日本建築家協会を立ち上げます。協力してくれますか」と熱い要請がありました。勤め先であった「丹下健三・都市・建築設計研究所」を辞する時、担当していた「赤坂プリンスホテル」の設計が終わり、いよいよ建設という時であったにもかかわらず、子供の病気のため退社を申し出た私たちを先生は暖かく受け入れ、「子供さんを大切に」と忘れがたい激励をくださいました。恩人からの信頼と支援に報いるため、新日本建築家協会設立への最善を尽くすことをお約束しました。

丹下健三・都市・建築設計研究所にて赤坂プリンスホテル模型

■「九州建築塾」の開講とまちづくりセミナー主宰

夫は「建築はどこででもできる、地域、丹下先生、自分たちの為にも北九州で頑張ろう」と力強く語り、意気込んで帰北しました。しかし当時の北九州市の建築設計の環境は、想像を超える厳しさがありました。彼の**「手記」**には**「帰北してからの北九州で痛感した事は、現実の問題として、地元でそれなりの建築物はほとんどが中央の建築事務所か有名建築家の手に委ねられる。そうでなければ、官庁主導であるか大手建設業者主導であり、大半の人々は地元の設計事務所がそれぞれどんな仕事をしており、どんなポリシーを持っているかを知らないということです。ただこの責任は単なる土地柄の問題ではなく、地元建築家の現場に対する取り組みの姿勢の問題とも言えるように思います。私たちは地元の現実を明確に認識し、自身の建築業界の健全な発展と真の建築文化を推進していくために、またそれに伴う幅広い層での建築家の資質向上のための基本的啓蒙を、じっくり腰を据えて頑張るしかないと決意し、そのための独自の研鑽会「10人会」を発足させました。そして「10人会」の活動で一定の実**

績を見たので、さらに社会に開いていこうと名前も「九州建築塾」と改め、詳しい運営要項も作成し、昭和57年（1982年）6月に第一回例会をもって正式発足しました。私たちは建築家としての使命と誇りを持って確たる地方の時代を建設していく決意です」と綴られています。JIAに先立つこと5年前にこの北九州での数少ない建築家としての志を持つ方々と立ち上げた「九州建築塾」は、「将来を展望し、人間性に立脚した真の建築文化を推進していくために、厳しい現実の中で、勇気と情熱を持って価値ある建築創造を目指す」との会の理念のもと、それぞれの研究を共有しメンバーを増やし、その後も精力的に続けられました。一方、市民や行政の理解を深めるために、北九州市の建築審査課にセミナー開催を提案し実施いたしました。毎回の企画実行は官民一体となって取り組み、大変楽しかったことを思い出します。長く連続シンポジウムとしてこのセミナーが続いたことも嬉しいことでした。

■JIA（新日本建築家協会）の発足と共に

1987年、JIAの発足の際にはこの「九州建築塾」のメンバーが積極的に入会し以来、九州支部を盛り上げてくださってきたのです。奇しくも同じ年、夫は「千草ホテル」の設計で、第一回北九州建築文化賞を受賞させていただきました。その後、塾メンバーはJIA会員としても活躍し、全国の価値ある建築物の視察会、北九州美術館に建築コーナーの設置等、使命感を持って全力で取り組みました。この「九州建築塾」の名称は、現在若手の方々を育むJIA九州支部の継続事業の名称として残っています。

■「JIA大会'94福岡」と「日米居住環境会議」

夫が44歳の時、最年少で全国の理事に選出されました。理事就任直後の秋に「JIA大会'94福岡」とともに開かれた「日米居住環境会議in北九州」の担当理事を務めることになり、前段階としてシアトルで開かれた「AIA北西部環太平洋地区大会」に出席、そして交換会議の形で日本での「日米居住環境会議」に**AIA**（アメリカ建築家協会、1857年設立）を招聘したのです。後に当時の鬼頭梓会長が**「豊川理事が北福岡地域会のメンバーとともに、驚くほどのパワーで企画から運営まで奔走してくださったこの「日**

AIA北西部環太平洋地区大会に出席
94年8月

AIAメンバーJIAメンバー鬼頭梓会長と末吉元北九州市長を表敬訪問

JIA大会' 94福岡

米居住環境会議」は、JIAの国際交流の歴史に残る大きな成功を収めた。そしてこの時に始まったロジャー・ウィリアムスとAIAのシアトル、支部メンバーとの交流は今も続いていて、JIAの建築家の財産となっている」と高く評価してくださっています。シアトルでは、通訳もいない中、AIAのメンバーと協議を重ね交流を図るなど、まさしく命懸けの取り組みでしたが、その活動はJIA全国の会員、そして九州支部や北福岡地域会の皆様との熱い絆を一段と深めることとなりました。また、自身の仕事や業務が厳しい最中でも「地域の方々と共々に生活文化の哲学が向上しなければ、自分たちが理想とする建物もできないし、良いまちづくりにも貢献できない」と地域社会との共生を大事にし、不眠不休でがんばっていた慎ましく高潔な姿が思い出されます。

■地域の中で、建築家の使命を

亡くなる1年前、夫は近畿大学の教授を拝命し、「若い人たちとの勉強や研究の場ができた」と大変喜んでいました。私も事務所を一手に担い、彼が望んでいた作家であるとともに研究者としての道を全うしてほしいと張り切っておりました。その矢先、皆様と一緒に準備してきた福岡の全国大会に出席することもできないまま1996年48歳でその生涯を閉じました。思えば力の限り、人を愛し、使命感を持って駆け抜けた、彼の一生でした。九州の共戦の友にも見送っていただき、大変幸せだったと思います。彼の使命を少しでも繋ごうと私なりに27年間JIAを始め、業界、大学、行政、民間の組織と、依頼されたことを精一杯やらせていただきましたが、力の及ぶところではなく、まだ彼の思いの万分の一も成し得ていません。

■地域を託す若き建築家の健康を祈る

そんな私を少しでも手伝おうと思ってくれたのか、思いもかけず、それぞれすでに法律家や音楽家を目指し大学生だった二人の息子が父亡き後、大学を理系の建築学科に入学し直し、修士、博士課程で学びつつ実務実績を積んだ後、15年前に九州に戻ってきました。ふつつかな息子ながら私は、親や地域を思う心を嬉しく思っております。これからは兄弟、力を合わせて、祖父、父が愛したこの九州の地で、建築文化向上のために尽力されてきた諸先輩にご指導いただきながら、多くの同輩後輩とともに地道に真摯に研鑽を重ねて誠実で良い仕事をし続けてもらいたいと心から願うものです。そして何より未来ある若き建築家全ての方々が心身共に健康であって欲しい。決して志半ばで命を落とすようなことになってはならないと強く強く祈っております。

第一回北九州市建築文化賞「千草ホテル」前にて、豊川夫妻

豊川設計事務所前にて、社長（裕子）
専務（智彰）常務（仁喜）

本部委員会について

田中　康裕　（福岡地域会）

ここ数年、本部委員会の委員の職を仰せつかり、教育委員会、CPD評議会、ケンバイWG、といった委員会に携わっている。ここでは、それぞれの委員会のミッションについて述べてみる。

1.教育委員会

教育委員会では、各支部、地域会における教育事業の検証し、CPDプログラムであるJIAスクールへと導くことで、各支部教育事業の活性化を図ることを目的にするとともに、公益社団法人であることを踏まえ、学生や一般の方や子供たちが、JIAから「学ぶ」ことができる仕組み作りも行っている。

また、コロナ禍で中止になっているリフレッシュセミナーの企画開催を行っていて、現在、2024年2月開催を目標に事業の案を検討中である。

他には、今年からであるが、（仮称）JIA・建築フィールドトリップを開催予定である。これは、JIA大賞などの作品から学ぶといった見学会であり、会員、学生、一般の方などに公開する事業である。

2.CPD評議会

CPD評議会は、JIA各支部の委員と建築技術教育普及センター、建築士会連合会の委員で構成されている。各支部や地域会（プロバイダー）からのプログラムについて、認定を行っている委員会である。ここでは、プログラムの形態や分野、単位数とともに、プログラム概要の審査を行っていて、メーカーなどからプロバイダー申請があったときには、その審査も行っている。現在は、自治体が行うプロポーザルや、コンペ、また経営事項審査にも、CPDが審査項目にも加えられているので、CPD単位取得が重要になってきている。

3.ケンバイWG

ケンバイWGは、業務委員会内のWG。建築家会館、損保ジャパンとJIAの委員で構成されている。WGでは、新入会員の加入や、他団体からの移行などについて、他団体の補償内容と比較も行いながら、基本プランとともにオプションプラン（建築基準法等未達、構造基準未達、工事監理、サイバーリスク補償）の内容の検討を行っている。また、各支部、地域会会員にJIAケンバイについて、理解を深めてもらうことを目的に、WEBにて、説明会を開催している。

JIAスクールとは

JIA が提供する教育プラットフォーム

建築の専門家の集まりである JIAは、「教育」を大切なテーマとしています。そのプラット フォームとして「JIA スクール」を立ち上げました。JIA スクールは、JIAが行う教育的な活動の全国的なネットワークです。建築に関係する専門家が自らの能力を向上させ、さらに建築学生や建築に興味を持つ一般の方々、子どもたちもJIAから学ぶことができます。JIAの本部や支部に分散している JIAの教育コンテンツを集約し、全国ネットのプラットフォームに整理することで、JIAの会員にもわかりやすく、さらに社会に広く発信と普及ができることを目指しています。

※JIAホームページより

CPD評議会とは

CPD評議会はJIA・CPD規則の中で、その組織、委員の任期その他必要な事項を定めています。

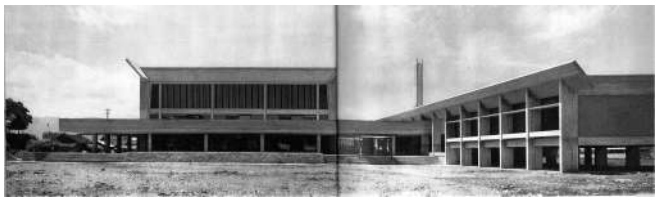
第9条（CPD評議会の運営）で評議会の役割について、本部CPD評議会は、運営に関する細則を立案するほか、研修等の認定基準の作成及び認定、必要単位の設定及び展修単位の認定を行う、としています。JIAのCPD制度そのものは2002年に開始されましたが、その後2004年に登録建築家制度の試行、2006年には建築CPD情報提供制度との共同運用、2008年の官庁営繕関連業務におけるCPD実積評価の導入と、CPDを取り巻く環境が大きく変わりつつある中、単位の認定とともに、実態に合わせた迅速な細則の改定を行う等、会員そしてプロバイダーが参加、そして使いやすい制度をめざしています。

※JIAホームページより

八代市厚生会館の「価値」

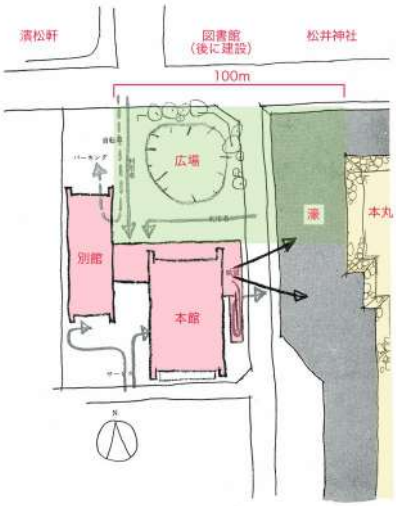
吉永　啓　（熊本地域会）

熊本県八代市に八代市厚生会館（1962年竣工）という公共（市）のホールがある。設計者は「外部空間」論によって世界的に評価された芦原義信。設計及び施工期間はそれぞれ1959～1960年、1961年4月～1962年7月、芦原氏が1960年に留学し学位論文の著述を経て「外部空間の構成」を出版したのが1962年であることから、八代市厚生会館は「外部空間」論の実験場や出発点と言われている。



北面全景　新建築1962年9月号より

八代市厚生会館の構造・規模はSRC造地下1階地上3階建て、延べ面積3,944㎡、1962年の竣工後、1992年に大規模改修、2009年に耐震改修が施されている。敷地は八代の中心部八代城跡の西側に位置する。本館と別館に分けて計画し入隅をつくり、その入隅と敷地外の本丸の石垣を広場の外周と捉え広場空間を形成している。石垣から別館までの100mという距離感は後の著書「外部空間の設計」の中で解説されている。さらに、私見だが北側への100m先は松井神社の境内地内であり濱松軒（1688年・茶屋）に接する程度の距離であることから、そこまでの距離感までも意識されていたのではないかとさえ思える。

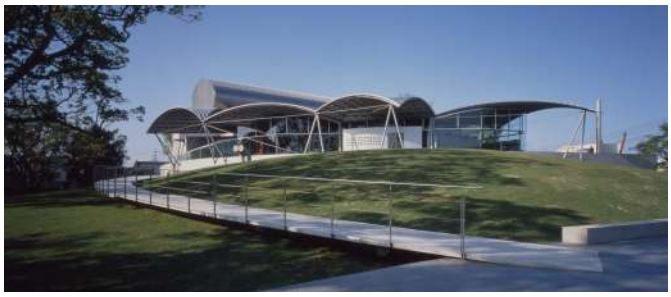


配置スケッチ　建築文化1962年9月号より
（カラー部分は加筆）

その他、水盤や飛び石、ピロティによる風景のフレーミング、スロープなど「外部空間」の仕掛けが随所にみられる。これらの「外部空間」は後の岡山県立児童会館（1962）、駒沢オリンピック公園管制塔（1964）、茨城県民文化センター（1966）などでより洗練された形で表現されている。残念ながら現在では別館が解体され水盤等もなくなってしまっているが、別館跡に建てられた八代市お祭りでんでん館（民俗伝統芸能伝承館）の設計者・平田晃久氏により芦原氏の「外部空間」は広場から八代市立博物館未来の森ミュージアム（設計：伊東豊雄）へ向かう「みち空間」と共に再構成されている。

北面全景　新建築2021年9月号より

また、ここまでに挙げられた周辺の建物名でお気づきかと思うが、この地域は江戸（八代城跡、濱松軒）、昭和（八代市厚生会館）、平成（未来の森ミュージアム）、令和（お祭りでんでん館）、それぞれの時代を代表する建物が集積しており建築的に非常に魅力的な場ともなっている。



八代市未来のミュージアム　公式FBより

八代市厚生会館は熊本県内初の公立文化ホールでもある。当時の市長・坂田道男氏の「私は必ずこの郷土に、ウィーンのオペラ劇場にまさるともおとらないオーディトリアムを建設し、私が音楽を通じて感じとった芸術的感銘を八代市民とともに味わいたい。少ない予算の中で最大の効果をあげた立派なものをつくりたい。」「設計を縮小してはならぬ。ローマやシャンゼリゼーが何年かかってできたと思うか。私が所定の大きさの基礎を置けば、必ず誰れかが完成してくれるから」（芦原氏へ宛てた手紙より）という崇高な想いの下つくられた。そしてその想いは連綿と受け継がれ八代の文化の発展に大きく貢献してきた。

本トピックスに納まりきれないので割愛するが、意匠、構造、音響についても多くの特徴がある。特に音響は当時数少なかったであろう音響の専門家の石井聖光（きよてる）により手掛けられ、交響楽団、歌手、能楽師などの著名人から絶賛されるほど音響的にも優れている。また、多目的となりがちな公共ホールの中で、音楽専用であることも他ではあまり見られない大きな特徴である。これらのことを背景に八代市厚生会館は2021年6月DOCOMOMO Japan 250に選定されている。

左：ホール　右：ホワイエ

外部からの評価も高く魅力的なモダニズム建築である八代市厚生会館であるが、現在解体の危機に瀕している。熊本地域会に元熊本高専教授磯田節子氏から柴田会員を通じて「八代市厚生会館がどうも危ういらしい、協力してもらえないか」と情報が入ったのが本年3月、その後すぐに地元の熊本高専・森山教授、八代市厚生会のホール再開を求める会から現状をお聞きし、4月14日に熊本地域会として八代市へホール再開を求める要望書を提出した。しかしながら、八代市は4月末に閉館、その後の解体、新八代駅前に計画中の新コンベンションセンターに機能を移転することを発表した。

八代市厚生会館のホール再開を求める要望書を提出する日本建築家協会九州支部熊本地域会の会員ら＝八代市

4/2見学、4/15熊本日日新聞

閉館までの経緯であるが、八代市厚生会館は2009年の耐震改修が奏功し2016年の熊本地震の被害を免れた。その後2018年度には特定天井であるホール天井の改修設計が発注されたが、受注した地元事務所が設計を完了させられず契約不履行となった。また、並行して2016年から整備計画が進められていたお祭りでんでん館の建設地として2019年6月から2年間の予定で休館し、同年7月に別館が解体された。その際、受変電設備や空調熱源などを失っている。これらの設備はお祭りでんでん館の屋上に設置される予定で、厚生会館自体もお祭りでんでん館のオープンと同時に再開されるはずだった。しかし、設備を復旧しないまま市は2021年2月ホールは再開しないと決定、5月に広報やつしろでホールの再開中止を公表し、6月お祭りでんでん館のオープンを迎えた。

このホール再開をしない旨の公表は市報での小さい記事だったために気づいた人も少なかったそうだが、ホール再開を待ち望んでいた市民、八代市文化協会のメンバーにより2021年12月八代市厚生会館のホール再開を求める会（以下、求める会）が結成された。ここまで「保存・再生」という言葉を使わなかったのは、求める会が発足当時よりあくまでもホール再開を求めるという立場をとっているからだ。求める会のメンバーは純粋に八代の誇り、文化の殿堂である八代市厚生会館を今まで通り使い続けたいだけなのである。

その後、2022年、求める会は人口の1割に及ぶ1万筆以上の署名を集め、学習会を開催、陳情書・提言書を提出、市との意見交換会も行ったそうだが、納得のい

く回答は得られなかったようである。市もホワイエ部分の利活用を民間公募したが、条件が厳しく応募者はゼロだったそうである。そして、前述した2023年4月末の「閉館」発表となった。

我々熊本地域会が係わりだした本年3月頃から熊本まちなみトラスト、地元建築家・西山英夫氏も積極的に係わっており、求める会が隔週程度で開く会議に参加し、事例の収集や情報発信、八代市が閉館の理由とした改修費20億円についての精査（実際する必要のない工事が含まれている）、公開質問状の作成をサポートしている。また、ここ3か月の間に求める会主催で立て続けにシンポジウム、語る会も開催している。7/30の第2回シンポジウムにはDOCOMOMO Japanの渡邉代表、鰺坂副代表もパネリストとして参加された。

6/11シンポジウムの様子

私が八代市厚生会館のホール再開活動に参加しているのは、いくつか理由があるのだが、一番は求める会メンバーの熱意である。正直、いくら建築としての素晴らしさを説明しても特に興味のない市民に対してはなかなか伝わらない。別館が解体され「外部空間」が失われている状況ではなおさら説得力がない。そして、「あんな古くてぼろいホールより新しくて多用途に使えるコンベンションセンターの方がいいじゃん」となってしまうのが大多数である。私も当初八代市厚生会館の話を聞いた時“終わった建物”　（利用率の悪いホール）の話程度にしか思っておらず、使い方の可能性を広げたり、違う用途の提案をして保存・再生をする道を探れたら良いなくらいにしか思っていなかった。しかし、今までの経緯や八代市厚生会館が八代の誇りであるという熱い気持ち、利用率が極端に悪かったわけではないこと、ホールの音響・雰囲気が好きで純粋に現状のまま使い続けたいことなどを聞くと、あくまでもホール再開なのだと気持ちが変わった。公共施設はコンセプトが忘れ去られ使い勝手が悪いと言われたり、ひどい時は最初から建てることが目的になり中身のないことがよくあるが、八代市厚生会館は今でも市民に愛されており、60年経ってもこのままが良いのだと言ってもらえる。建物にとってこんなに喜ばしいことがあるのかと思った。また、建築が当時の坂田道男市長の想いを60年後の市民に引き継ぐ触媒のような役割を果たしており、市長や芦原氏はどれだけ素晴らしい仕事ぶりだったのだろうか、建築はやはり素晴らしいものだと感慨深いものがあった。

現在の状況としては、7/25に八代市厚生会館の条例廃止が市議会で可決されてしまい、7/20に市へ提出した再公開質問状に対し8/17の市の回答は中身のないもので最後に「市執行部としては、廃止の経緯や理由等に関し、改めて議論することは差し控えたい」とバッサリと切り捨てられてしまった。手詰まり感はあるが、どんどん発信して活動を波及させていこうと色々と検討している。JIAにおいても保存再生会議にて要望書第二弾を準備中と聞いている。少しでも八代市に響いてくれたらと願っている。

最後に、少しずつですが求める会のYouTubeや熊本地域会のFacebookで発信しています。アドバイスなど頂けるとありがたいです。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

求める会YouTube　　熊本地域会FB

地域交流会IN長崎を開催して

一丸　康貴　（長崎地域会）

九州支部役員及び会員との「長崎」での地域交流会が7月8日（土）～7月9日（日）にかけて以下の日程で開催されました。

7/8（土）

13：30　支部役員会（会場：樂ギャラリー）

16：30　ブライアン・バークガフニ氏による講演「長崎居留地の歴史と文化遺産について」

18：30　懇親会

7/9（日）

10：00　エクスカーション　長崎さるく「居留地路地裏さんぽ」

12：00　解散

コロナで2年間延期した後の3年ぶりの持ち出し役員会を長崎にて開催する事が出来、大変嬉しく思います。会場は長崎の浜町アーケード内にある樂ギャラリーにて行いました。入口が少し分かりにくい場所でしたが、さすがJIAの皆様迷うことなく会場に到着され時間通りに支部役員会を開催することが出来ました。下山幹事長のスムーズな進行も有り予定通りに役員会を終了する事ができました。参加者は28名（内長崎地域会会員3名）でした。

講演会フライヤー

講演は長崎総合科学大学名誉教授、グラバー園名誉園長でもあるブライアン・バークガフニ氏へお願いしました。バークガフニ氏は1950年カナダ生まれ。1972年来日。1982年長崎市に移住。1996年長崎総合科学大学教授就任し、旧グラバー住宅やリンガー家の歴史等について著書多数出版されております。講演内容は「長崎居留地の歴史と文化遺産」についてお話頂きま

支部役員会の様子

バークガフニ氏の講演の様子

した。長崎人よりも長崎の歴史に詳しく、時折ジョークも交えながら大変面白く、学びが多い講演会でした。参加者はJIA会員37名、一般10名の計47名と会場いっぱいの参加者となりました。また参加者の方には長崎総合科学大学教授である山田由香里先生より2022年11月にバークガフニ氏の講演を記録した地域論叢（長崎総合科学大学地域科学研究所発行）のプレゼントが有りました。（参加者が多く私の分の地域論叢がなくなり後日、山田先生から頂きました）

懇親会は「よひら」というお店で35名の参加がありました。席はくじ引きとしました。長崎地域会の会員が8名、協力会員から3名の参加があり、九州各県の役員の方達との交流を深める事が出来たのではないかと思います。皆さんの楽しそうな雰囲気を見ていると、持ち出し役員会の準備の苦労が報われ、やっぱりJIAは居心地が良いなと思った瞬間でした。九州県内の各会員と楽しくお酒を飲むことができ、九州の結束をより一層強める事出来ました。支部長の挨拶で締めて頂き、ほぼ全員で2次会へ（この時点で人数把握できてません）2次会でもみなさん各々会話が弾み、その後3次会、締めと続きました。（徐々に参加人数は減っていきました）

締めの様子

2日目は、長崎さるく「居留地路地裏さんぽ」（南山手）を開催し、11名の参加でした。

10時からスタートし、約2時間かけてグラバー園や大浦天主堂周辺を歩き、坂の街ならではの風景を楽しみました。参加された会員の方は、前日のバークガフニ氏の講演会と合わせて居留地の歴史について理解が深まったのではないでしょうか。

最後に、ご参加頂いた会員の皆様、長崎までお越し頂きありがとうございました。　持ち出し役員会を開催するにあたり、不慣れな部分もあったかと思いますが、とても楽しく、有意義な時間を皆様と過ごす事が出来ました。

懇親会後集合写真

エクスカーション集合写真

JIA修学旅行in京都

福田　哲也　（福岡地域会）

■1月16日　月曜日

今年の1月、福岡地域会の協力会執行部会議の後、和田正樹協力会委員長と西井博文協力会会長と食事に行き、和田会員の「6月の梅雨前ぐらいに、みんなで京都行きたいね」のたわいもない会話の一言があり、「いいですね」福田、「私、同志社出身ですからアテンドしますよ」西井会長、その数日後に今回の”JIA修学旅行in京都”が決定しました。

このようないい加減なスタートですから、参加メンバーもそのタイミングで行けそうな会員ということで、福岡地域会から、市川会員、田島会員、和田会員、松山支部長、西井会長、私、そして北海道から豊嶋守会員、計7名の参加が早々に決まり、折角なので普段見学できない所ということで、「修学院離宮」の見学を申込み、6月6日京都現地集合という最低限の日程が決定し、当日を待つこととなりました。

■6月5日　月曜日

やや若手（？）の松山支部長と私は、折角なので前日入りをして、京都のＪＩＡ仲間、岡田良子京都地域会長、魚谷繁礼会員、木村吉成会員と京セラ美術館ディレクターの前田尚武さんと、鴨川沿いの「東華菜館」で夕食を共にすることにしました。皆さんご存じの通り、東華菜館は、1926年に建てられたヴォーリズ建築で、日本に建てられたヴォーリズ建築の中で唯一の飲食ビルであります。建築当初は西洋料理のお店であったので、建築はスペインバロック様式が用いられ、1945年に今の中華料理である東華菜館になり、現在に至っています。京都の近代建築に造詣が深く、実際に見学ツアーなど企画を手掛けている前田さんの計らいで、食事後に建物内を前田さん解説付きで見学させていただきました。日本最古のエレベーターの手動扉を開け運転士さん付きで最上階へ、そこから屋上まであがり、バロック調の華美な装飾を施した塔屋部分や、イスラムやエスニックに通ずるような折衷の美と素晴らしい維持管理状態を堪能しながら、下階へと下っていきました。その後、先斗町の落ち着いたバーから、昔から京都の芸術家が集うという書籍とレコード、そして段ボールが積み上げられた伝説のバーまで、皆さんにお付き合いいただき、気づけば時は丑の刻となっておりました。

東華菜館にてやや若手の集まり

伝説のバー

■6月6日　火曜日

予定通り集まりました、2か所に分けて。というのも、実は修学院離宮の見学申込みが1組4名ということで、2班に分かれて申込んでいたのですが、1班がはずれてしまい、修学院離宮班と同支社大学近代建築班二手に分かれての見学ツアーということになったのです。私は修学院班ということで、ホテルオークラのロビーに集合し、田島会員、豊嶋会員、和田会員とともにタクシーで修学院離宮へ向かいました。当日はあいにくの空模様ではありましたが、見学時はたまの小雨に傘をさす程度で、かえって暑くもなく気持ちの良い

見学となりました。

修学院離宮は、京都市の北東部、比叡山の麓に位置し、江戸時代初期、1956年から59年頃にかけて後水尾上皇によって造営された山荘です。広大な敷地内に、上離宮、中離宮、下離宮が高さの異なる大地に庭園とともに建てられ、離宮内には水田があり、この水田を横切る松並木が3つの離宮をつないでいます。この広大な敷地内をガイドの方の説明を聞きながら、1時間半程度かけて見学して回りました。まずは、下離宮を見学し、水田を横切って、中離宮を見学、そして少しきつい坂と石段を登ると、眺望素晴らしい上離宮に到達しました。南西方面からは京都市内を一望でき、また北東側は山からの小川をせき止めて作った浴龍池と庭園が見下ろせる、贅沢な離宮です。その景色を座して眺める3名のJIA会員は、この離宮の当主にも見えなくもない貫禄と、すぐには立ち上がりたくないオーラをまといながら、眼下の景色を眺めておりました。ことなく見学も終え、帰りしなに京セラ美術館に立ち寄り、展示は入替えの為見ることはできませんでしたが、ロビーなど建物内部を少し見て回ることが出来ました。そして出発地点であるホテルオークラに戻り、夕食まで少し時間がありましたので、近場の京都散策と乾いた喉を少し潤すことにしました。そこで、別班と合流し、互いの本日の収穫を報告しながら夕食のお店へ移動しました。夕食のお店は、京大近く、阿闍梨餅本舗満月本店すぐの和食料理屋で、こちらは同志社出身の西井会長ご紹介のお店で、なんでも西井会長学生のころから、家族ぐるみのお付き合いのお店だそうで、はじめての私ども来訪者をとても暖かくお迎えいただき、おいしい京料理とおいしいお酒と、とてもリラックスした時を過ごすことができました。またこの夕食会から元近畿支部長の松本敏夫会員も合流し、先輩方は大いに昔話に花が咲き、若干若手の2名は、皆さんのお話を拝聴しながら日本酒を頂戴し、しっかり酔わせていただきました。おかげで集合写真を撮るのを失念し、記憶にだけ残る、夕食会となりました。あっという間の2時間が過ぎ会はお開き、各自おとなしく宿に戻り、次の日は、更なる建築巡りをするもの、仕事先へ移動するもの、ゴルフに興じるもの、それぞれの6月7日水曜日を過ごしたことを付け加えておきます。

窮邃亭

3人の当主

浴龍池の眺め

この京都旅行を終え、あらためてJIA会員同士の縦のつながり横のつながりのすばらしさを感じました。ふとした会話をきっかけに、20近く違う会員同士、九州～近畿～北海道から、協力会員も、気軽に集まるのです。「建築」という共通言語と、JIA活動を通しての信頼関係が会員という枠を超え、友人として集まり、語り、親交を深めるこのような会は、他にはない繋がりであり、財産であるでしょう。我々、やや若手も、今後はこのような修学旅行、集まりを企てて、皆で集まる機会を多くつくっていきたいと思います。今回はこのような機会を、1月16日月曜日の寒い夜に、ワイン片手に企てて下さった和田先輩に改めて感謝いたします。

修学院記念撮影

塚川　譲　（福岡地域会）

みなさん、こんにちは。

日本設計九州支社に在籍している塚川譲と申します。

この度日本建築家協会に加入することを誇りに思い、皆さんに自己紹介とJIA入会のきっかけ、そして抱負についてお話ししたいと思います。

私は建築とデザインに情熱を持ち、長い間この分野で働いてきました。建築は私にとって芸術と機能が融合したものであり、社会に貢献できる素晴らしい生業だと信じています。これまで小さな家具から集合住宅、商業・文化施設、再開発や海外のマスタープランなど、幅広い分野で設計をさせて頂き、近作では熊本城特別見学通路と言う前例のないプロジェクトを担当していました。

日本建築家協会への入会は、建築家としての専門性を高め、業界でのつながりを深める絶好の機会であると考えました。この協会が提供する様々なリソースやネットワーキングの機会を活用し、他の建築家との繋がりを通じて新たなプロジェクトに取り組み、日本の建築界に貢献したいと思っています。

私の抱負は、持続可能な建築と環境に配慮したデザインに重点を置くことです。環境への負荷を最小限に抑えながら、美しさと機能性を兼ね備えた建築を創り出すことに情熱を注いでいます。また、日本の伝統的な風景と現代のデザインを融合させることで、新しいアイデアとアプローチを探求していきたいと考えています。

最後に、日本建築家協会のメンバーとして皆さんと協力し、建築の未来を築いていけることを楽しみにしています。

どうぞよろしくお願いいたします。

熊本城と熊本城特別見学通路
photo：益永研司写真事務所

JIA九州支部鹿児島地域会協力会員の思い

山﨑　洋　（鹿児島地域会協力会）

鹿児島地域会の皆様方には常々私共協力会会員をお引き立ていただき深く感謝申し上げます。会員数は３７社で他種多様な業種が集まっております。

地域会定例会の後にある講演会や意見交換会、協力会会員の商品紹介など地域会会員との交流が盛んです。また懇親会では胸襟を開き大いに語らい、賑やかに時間が過ぎていきます。プライベートな話に花が咲くことがあります。仕事よりそちらの方が多いのかもしれません。

ただし、このコロナの影響で３年の間開催を中止していて十分なコミュニケーションが取れませんでした。しかも我々の環境はネット社会へ大きく変化しましたが従来のフェイスｔｏフェイスの時間が大事ではないかなと考えます。これからまた大いに盛り上がる会の開催が再開されうれしく感じております。

私が帰郷し建築業界へ踏み出したのは昭和51年(1976)でした。当時の鹿児島は鴨池ニュータウンに14階建ての住宅公団住宅が次々と建築される頃でした。家業である山﨑商会は防水工事と外壁吹付工事の専門工事店でした。

父が創業してから令和5年で55年が経ちたくさんの建物の工事に専門的に携わることができ大きな自信にもなっています。その間多くの建築家や建築業会、専門業の方々に出会うことが何よりの財産だと感じました。

近年新築工事はさることながら補修工事や改修工事が増加しております。建物の生命線である雨漏りのしない建物、建物の安全を守る外壁などの維持保全が重要となってきております。民間はもちろんですが官公庁も建物の長寿命化に着目し色々な工法を提案しております。ＪＩＡ鹿児島地域会の皆様方にもそのような機会を頂くことができました。

誠実で勤勉な方々が多く集っているのがＪＩＡ九州支部鹿児島地域会であると知り平成17年(2005)に入会を許され大変うれしく思いました。やがて15年以上の在籍となりまた協力会会長の大役をお引き受けすることになりました。今後ともより地域会と協力会の会員相互の交流を深め継続した繋がりを続け活動の一助になればと考えております。

一方、建設業界は技能工、後継者不足に拍車がかかり労務費の高騰、資材高騰など取り巻く環境は大変厳しくなっております。特に最近は石油製品の高騰などによりガソリンが急騰し毎日の生活にも影響が及んでいます。

建設工事費が高騰し計画段階の試算と大きな差異が発生し計画断念となった物件もあるのではないでしょうか。

このような中物価高騰の一因であるロシアのウクライナ侵攻が長期化され世界中が大きな影響を受けました。今後早期に平和になることが望まれます。コロナの蔓延やロシアの侵攻など明るいニュースが少ない中鹿児島では県立総合体育館、サッカースタジアム構想が徐々に現実味を増してきており今こそＪＩＡの出番ではないかと期待しております。

今後、地域会及び協力会会員の理解を深めますます盛り上げていきたいと考えます。会に理解を示した新入会員も積極的に増やしていきたいとも思います。

結びにＪＩＡ九州支部鹿児島地域会と協力会の積極的な交流が続くことになりますようご期待申し上げます。

報告事項

③　＜常設委員会＞　活動報告

1	総務委員会	下山道男	苦情対応WG:川津悠嗣　知財WG:佐々木 信明

7/21 第1回委員会　・入退会審査　・オンライン入会の手法検討　・個人データ漏洩について

苦情対応WG：　報告事項なし

知財WG　：　報告事項なし

2	財務委員会	下山道男

報告事項なし

3	職能・資格制度委員会	佐々木 信明

JIA建築家大会2023 in 常滑の企画についてメールリレーで企画内容について検討中
８月３日　職能・資格制度委員会＋建築家資格制度実務委員会　合同委員会　建築家資格制度実務委員会
主な議題
・ JIA大会（プレイベント および 現地）に向けて
・ 新規・更新・再登録の勧誘メール発送の段取り
・ 提言のその後 ＋ 新提言

4	業務委員会	前田哲	建賠WG:田中康裕

報告事項なし

5	広報委員会	川津悠嗣　支部は川津悠嗣、有吉兼次

7/4本部広報委員会web、7/21 リーフレットWGweb、 7/13　広報委員会会議、9月末ブルテン発行予定に向け準備中

6	教育委員会	田中康裕

報告事項なし

7	国際委員会	水本浩二

・7/21　第4回国際委員会
（今後の国際活動、UIA関連、JIA大会常滑IPFの協議、UIA大会参加報告ほか全9議題）
・7/14、7/28、7/31、8/3　JIA常滑大会IPF準備会議

8	CPD評議会	田中康裕

7月28日委員会開催。90分プログラムについて協議

9	建築家資格制度実務委員会	佐々木寿久

JIA建築家大会2023 in 常滑の企画についてメールリレーで企画内容について検討中
８月３日　職能・資格制度委員会＋建築家資格制度実務委員会　合同委員会　建築家資格制度実務委員会
主な議題
・ JIA大会（プレイベント および 現地）に向けて
・ 新規・更新・再登録の勧誘メール発送の段取り
・ 提言のその後 ＋ 新提言

報告事項

④　＜全国会議＞　活動報告

1	JIA環境会議	古森弘一	気候変動対応WG:福田展淳

報告事項なし

2	JIA保存再生会議	柴田真秀

報告事項なし

2-2	JIA保存再生会議　文化財修復塾	田島正陽

６月２３日より塾長が上嶋氏から九州支部の田島に替わった。鰺坂氏は副塾長で留任。新修復塾として制度改革中。
今年度の新規募集は未定。現在受講中の方へは引きつづきフォローし、今年度で終了することを目指していただく。

2-3	JIA保存再生会議 近現代建築物緊急　調査ユニットWG	松島逸人

報告事項なし

3	JIAまちづくり会議	松島逸人	別添資料1,2
	・7／11(火)に、第１回まちづくり会議をＷＥＢ開催。 今秋の建築家大会における活動を協議。 事前週間に公開シンポジウム、当日にまち歩きの会を開催する事になり、実行委員会に企画書を提出。 終了後に、ファシリテーター養成のための反省会を開催する。 ・7／31に第２会まちづくり会議をＷＥＢ開催。 今秋の建築家大会における活動を協議。 予算や日程、場所等を協議決定。 今後詳細を検討して準備を進めていく。 同会議のＯＢの継続参加の仕組みを作成（サポーター制度）。活動の枠を広げて行く。		
4	JIA災害対策会議	林田直樹	
	7/20第一回災害対策会議開催　９/2宮城ボイス×JIA災害対策委員会によるシンポジウム開催の予定（原田会員がトークセッションに登壇予定）		
5	JIA建築相談連携会議	有吉兼次	
	報告事項なし		
5-2	JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
	7月1日から7月31日は下記の相談対応を行いました。 〇7月13日福岡　一般 マンション管理組合よりマンション共用部の不具合相談(6月22日延期分) 〇7月13日福岡　一般 新築住宅のプランと見積の相談 〇7月27日福岡　建築相談定例会と懇親会を開催		
6	住宅等連携会議	佐々木寿久	
	報告事項なし		
6-2	住宅等連携会議 (小規模事務所のBIM推進)	佐々木寿久	
	報告事項なし		
6-3	住宅等連携会議(障害者の居住にも対応した住宅の設計ガイドラインに関する検討会)	佐々木寿久	
	報告事項なし		

報告事項

⑤　＜その他＞

1	全国学生設計コンクール実行委員会	池浦順一郎	
	報告事項なし		
2	職責委員会	松山将勝	
	報告事項なし		
3	懲戒審査委員会	佐々木 信明	
	7月13日　開催　被懲戒者不服申し立てに伴う懲戒審査委員会の開催		

懲戒

⑥　＜特別委員会＞　活動報告

1	オンライン_リモート対応や環境整備に特化した特別委員会	村上明生	
	報告事項なし		
2	カーボンニュートラル特別委員会	古森弘一	
	報告事項なし		

支部事業委員会報告

教育支援委員会

1	**建築塾WG**	**佐々木寿久**
	各地域会からの参加者の登録お願いします	

2	**デザインレビューWG**	**池浦順一郎**
	報告事項なし	

3	**DR高校生レポーターWG**	**重田　信爾**
	報告事項なし	

4	**建築家派遣（エコルサポート）**	**福田　哲也**
	7月19日：東住吉小学校6年生による中間発表があった。その中間発表をふまえて、9月27日、10月18日、の２日間で、 最終の模型製作をJIA会員サポートのもと行う。	

活動支援委員会

1	**収益事業WG**	**川津　悠嗣**
	報告事項なし	

2	**JIAサポートWG**	**川津　悠嗣**
	報告事項なし	

3	**木活（モクカツ）WG**	**松島　逸人**
	・壱岐において、木造４階建てビルの見学会を企画(8／11、12)。 14名の参加希望。 御盆前で交通、宿泊事情の困難と猛暑を鑑みて秋(11／18、19)に延期。 ・7月29日、木塾と今後の活動について協議。	

4	**２５年賞WG**	**下山 道男**
	25年賞の募集が8月14日までですので、各地域会からの応募をお願いします	

5	**九州建築新人賞WG**	**松山 将勝**

6	**ケンバイWG**	**田中康裕**
	7月20日委員会開催	

報告事項

③　＜常設委員会＞　活動報告

1	総務委員会	下山道男	苦情対応WG:川津悠嗣　知財WG:佐々木 信明

8/9　第2回委員会会(WEB会議)　・入退会審査　・九州支部準会員・協力会員入会申込書改正案について　・教育委員会TF設置について　・オンライン入会の手法検討について　・情報漏洩対策：WEBサイト調査について　・7/31全国事務局会議開催報告　・規定類についての勉強会

苦情対応WG：　報告事項なし

知財WG ：　報告事項なし

2	財務委員会	下山道男

8/8　第1回委員会会(WEB会議)　・2023年度通常総会(6/23)報告（2022年度決算 / 2023年度予算）、　ほか　・2023年度財務委員会活動に向けて　・2023年度事業活動助成（案）について　・事業活動助成報告書について　・災害対策積立資産運用規程　改正案について　・全国事務局会議報告（消費税に係るインボイス導入への対応）について

3	職能・資格制度委員会	佐々木 信明

・8月10日職能・資格制度委員会と建築家資格制度実務委員会合同会議（WEB ・臨時認定評議会開催、新制度の議論（建築士会連合会との協議の具体像に向けた提案の承認、JIA建築家大会2023東海プレイベント開催申込みの件・8月23日　実務委員会＋職能・資格制度委員有志会合の委員会　・更新際登録の案内の件、「士会連合会との協議の具体像に向けた提案」その後　JIA大会 2023東海（プレイベント10／16 18:00～ ＋常滑11／10）への対応　・9月8日（金）職能・資格制度委員会単独開催　会長・理事懇との協議の振り返り、東海支部会員集会（職能・資格制度について）報告,建築家大会2023東海in常滑でのイベント企画について

4	業務委員会	前田哲	建賠WG:田中康裕

報告事項なし

5	広報委員会	川津悠嗣　支部は川津悠嗣、有吉兼次

6	教育委員会	田中康裕

8月29日委員会開催　来年2月予定のリフレッシュセミナー他協議

7	国際委員会	水本浩二

・8/25　第5回国際委員会
（国際活動記事掲載、UIA関連､JIA大会常滑IPFの協議、支部助成、ARCASIA関連ほか全16議題）

8	CPD評議会	田中康裕

8月25日評議会開催

9	建築家資格制度実務委員会	佐々木寿久

・8/23　資格制度実務委員会

報告事項

④　＜全国会議＞　活動報告

1	JIA環境会議	古森弘一	気候変動対応WG:福田展淳

9月11日（月）委員会開催　「JIA2050カーボンニュートラル連続セミナー第4期（全3回）への協賛依頼」等について

2	JIA保存再生会議	柴田真秀

報告事項なし

2-2	JIA保存再生会議　文化財修復塾	田島正陽

9月13日第４回委員会、8月３１日塾改革第２回検討会議、8月９日第３回委員会、など開催した。

2-3	JIA保存再生会議 近現代建築物緊急 調査ユニットWG	松島逸人

報告事項なし

3	JIAまちづくり会議	松島逸人
	・8／31(木)に、第3回まちづくり会議をＷＥＢ開催 今秋の建築家大会における2企画について協議 ①10／25　事前週間に公開シンポジウムをWEB開催 講師は五十嵐敬喜さんと藻谷浩介さん テーマは「脱経済成長とコモンを捉えた建築まちづくり／地球環境と幸せを考える」 ②11／9　常滑市内のまち歩きの会を開催 ファシリテーターの養成を目指す 夜は反省会を開催 予算や日程、場所等を協議決定	
4	JIA災害対策会議	林田直樹
	8/24（木）第2回災害対策委員会　　9/2宮城ボイス×災害対策シンポジウム「震災復興をパースペクティブで考える　20年後の住宅復興」開催　JIA原田会員と林田にて参加	
5	JIA建築相談連携会議	有吉兼次
5-2	JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次
6	住宅等連携会議	佐々木寿久
	・8/9　住宅連携会議 ・9/13　住宅連携会議	
6-2	住宅等連携会議 (小規模事務所のBIM推進)	佐々木寿久
	報告事項なし	
6-3	住宅等連携会議(障害者の居住にも対応した住宅の設計ガイドラインに関する検討会)	佐々木寿久
	報告事項なし	

報告事項

⑤　＜その他＞

1	全国学生設計コンクール実行委員会	池浦順一郎
	報告事項なし	
2	職責委員会	松山将勝
	対象者なし	
3	懲戒審査委員会	佐々木 信明
	報告事項なし	

懲戒

⑥　＜特別委員会＞　活動報告

1	オンライン_リモート対応や環境整備に特化した特別委員会	村上明生
	報告事項なし	
2	カーボンニュートラル特別委員会	古森弘一
	報告事項なし	

支部事業委員会報告

教育支援委員会

1	建築塾WG	佐々木寿久		
	9/21～23まで指宿にて開催			
2	デザインレビューWG	池浦順一郎		
	報告事項なし			
3	DR高校生レポーターWG	重田　信爾		
	報告事項なし			
4	建築家派遣（エコルサポート）	福田　哲也		
	報告事項なし			

活動支援委員会

1	収益事業WG	川津　悠嗣		
	報告事項なし			
2	JIAサポートWG	川津　悠嗣		
	報告事項なし			
3	木活（モクカツ）WG	松島　逸人		
	・8／23(水)に、今秋の木活事業の活動支援について支援機構と協議			
4	２５年賞WG	下山 道男		
	2023年度「JIA25年建築選」登録について、本部より福岡1件、福岡1件、熊本2件、鹿児島1件の報告書の依頼があり、各地域会で審査を行ってもらった			
5	九州建築新人賞WG	松山 将勝		添付資料１
	9月１日～応募開始　後援団体にも案内依頼を行い周知の協力要請をしている。(別紙フライヤー)			
6	ケンバイWG	田中康裕		
	報告事項なし			

福岡地域会役員会（第2回）

■日時：2023 年7月15 日（土曜日）17：00～18：30
■場所：JIA九州支部事務局
■参加人数：出席者　10　名　・　委任状　6　　名
第1回役員会議事録確認
■審議事項
特になし
■協議事項
1.建築倶楽部ゴルフコンペについて　　2.四季の会について
3.25年賞について　4.全国大会について　5.その他
■報告事項　1.　会長報告　2.　九州支部長報告　3. 事業室報告
4. 企画運営室報告
5. その他

第2回福岡地域会役員会風景

企画運営室　活動報告

他団体連絡協議室は次回9月か10月開催で日程調整中

（担当　鮎川透）

福岡建築倶楽部9月21日ゴルフコンペ開催、今年度はJIAが幹事

（担当　田島正陽）

建築相談室

7月1日から7月31日は下記の相談対応を行いました。
〇7月13日福岡　一般 マンション管理組合よりマンション共用部の不具合相談(6月22日延期分)
〇7月13日福岡　一般 新築住宅のプランと見積の相談
〇7月27日福岡　建築相談定例会（7名参加）と懇親会を開催

建築相談定例会の様子

■長崎地域会第36回通常総会

●日時：2023年4月17日（水）17：00～18：00
●出席：17名(JIA会員14名+協力会員3名)、松山支部長参加
　　WEB形式にて開催
■協議事項
・事業計画や収支予算について

■長崎地域会第4回役員会開催

●日時：2023年4月26日（水）15：30～16：30
●出席：鼻﨑、松本、一丸、平松、佐々木、田中
　　WEB形式にて役員会を開催
■協議事項
・持ち出し役員会について

■長崎地域会第5回役員会開催

●日時：2023年6月8日（木）13：00～14：00
●出席：鼻﨑、松本、一丸、平松、佐々木、田中
　　WEB形式にて役員会を開催
■協議事項
・持ち出し役員会について

■長崎地域会第6回役員会開催

●日時：2023年7月3日（月）17：00～18：00
●出席：鼻﨑、松本、一丸、平松、佐々木、田中
　　WEB形式にて役員会を開催
■協議事項
・持ち出し役員会について

■2023JIA九州支部地域交流会IN長崎 開催

●日時：2023年7月8日（土）13：30～20：00
●支部役員会参加者29名、講演会47名(一般10名)
　懇親会35名、二次会、三次会、締めまで
・講演会はブライアン・バークガフニ先生をお呼びし、「長崎居留地の歴史と文化遺産」について、ジョークを交えながら非常に興味深いお話を聞くことが出来ました。

・懇親会では、長崎地域会会員と協力会員も参加し、九州県内の各会員と楽しくお酒を飲むことができ、結束をより一層強める事ができました。皆様ありがとうございました。

・二次会、三次会、締めと長い夜は続きました。

■2023JIA九州支部地域交流会IN長崎
　エクスカーション　長崎さるく(居留地裏さんぽ)

●日時：2023年7月9日（日）10：00～12：00
●参加者11名

・雨予報でしたが、三迫会員と田中会員による晴れ男ぶりが発揮され、さるく中は雨が降らずにさるく事が出来ました。

・ご参加頂いた会員の皆様、長崎までお越し頂きありがとうございました。

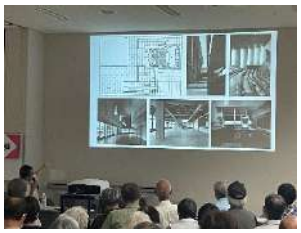
熊本地域会月例会（第4回）

■日時：令和5(2023)年7月27日(木)18：00-20：30
■場所：熊本市国際交流会館5F小会議室（洋）
■参加人数：11名
1.審議事項、協議事項
　1-1：建築家作品展について
　　・受付、準備物担当確認
　　・参加13組（JIA以外3組）
　　・初日7/31(月)9時　PSオランジュリ集合
　　・来年は県立美術館分館10月申し込み（今後抽選）
　1-2 :住宅賞について
　　・スケジュール確認
　　・司会：林田　記録：吉永
　　・冊子化　基本データとし、少量プリントする
　1-3：地震記録誌執筆担当について
　　・執筆者へ支部から依頼あり。
　　その他、原田さんより執筆者へ依頼
　1-4：ブルテン執筆担当について
　・9月号「とぴっくす」担当：吉永　内容：八代市厚生会館
　1-5 : ライティングパーティーについて
　・12/1(金)開催予定　担当：森下、堀田、吉武、長野、吉永
2.報告事項、確認事項
　2-1：八代厚生会館の件について
　　・支部からの要望書　保存再生会議議長にて準備中
　　・7/30(日)シンポジウム第2弾
　2-2：各委員会報告
　　・JIA新人賞担当林田　募集中
　　・全国大会会議第2回　候補日2024年10月末or11月初旬
　　・災害対策委員会　zoom・YouTube配信あり
　　・モクカツ　11月にモクヨンビル見学会予定
　2-3 ：四季の会、建築塾
　　・建築塾　指宿　参加費は熊本地域会で負担（決定）
　　・四季の会　70歳以上対象　案内あり次第連絡する

3.その他
　　・芳野旅館（人吉市）寄付により冊子製
4.CPD　なし
5.閉会　21：00

八代市厚生会館

・7月30日(日)　シンポジウム第2弾 熊本地域会から5名参加
・基調講演　DOCOMOMO 渡邉代表、鰺坂副代表



第33回 熊本の建築家作品展

・開催期間：7月31日(月) ～8月6日(日)
・会場：PSオランジュリ 2階
・一般展示 熊本の建築家作品展
・特別展示：第12回 JIA熊本住宅賞 応募作品展示
・特別企画：8月3日(木) JIA熊本住宅賞公開審査

活動スケジュール

〇7月
　７日：九州建築新人賞WG会議（WEB）
　8~9日：持ち出し役員会in長崎
　15日：熊本地震震災ミュージアム完成記念シンポジウム
`　21日：第2回北福岡地域会役員会＋建賛会主催ビアパーティ
　24日：建築家大会2024別府 実行委員会（WEB）
〇8月
　3日：北九州市建築都市局建築指導課意見交換会
　5日：日韓学生WS課題発表会・九州支部役員会
`　17日：北九州建築６団体連絡会議
　28日：北九州建築６団体行政打ち合わせ
　30日：建築家大会2024別府 実行委員会（WEB）

第2回北福岡地域会役員会

■日時：令和5年7月21日金曜日17:30-18:30
■場所：ハコガシ　mini２１号室
■参加：服巻、熊谷、三迫、永澤、高濱、杉野、戸村、金子、塩釜
■報告事項
・日韓学生WS 参加大学・スケジュール・会場決定

建賛会主催ビアパーティ

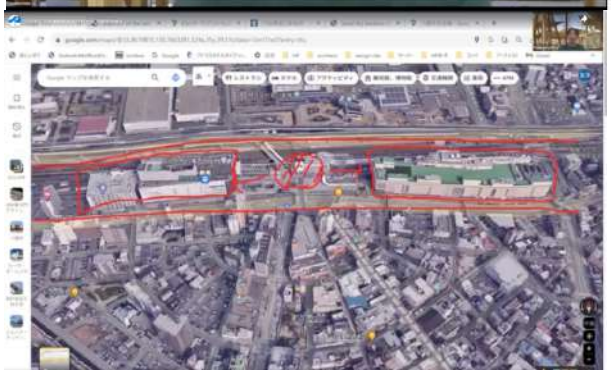
■日時：令和5年7月21日金曜日19:00-21:00
■場所：リーガロイヤルホテル リーガトップ
■参加：JIA+KAC+建賛会
■報告事項
・４年ぶりに開催
・賛助会員との交流を行なった

北九州市建築都市局建築指導課意見交換会

■日時：令和5年8月3日木曜日15:30-17:00
■場所：北九州市役所本庁舎１４階１４１会議室
■参加：建築指導課 課長・係長他3名　KAC・事務所協会・JIA
■報告事項
・民間建築物のZEB・バリアフリーに関する意見交換会
・（仮）ZEB普及セミナーについて
・CASBEE北九州の改定予定の独自指標について
・福岡県福祉のまちづくり条例不適合物件の建築主へのアンケートについて

日韓学生WS課題発表会

■日時：令和5年8月5日土曜日10:00-12:00
■場所：ZOOM
■参加：日韓学生１３チーム・JIA他　51リモート
■報告事項
・畑友洋氏による課題発表会
・敷地説明
・参加チーム代表者による挨拶



9月公開例会　「九州建築新人賞 創設記念講演」＆協力会新商品紹介・説明会

■審査員の塩塚隆生氏、田中俊彰氏、柳瀬真澄氏にご登壇いただき、ＪＩＡ九州支部長　松山将勝をモデレーターして、九州の建築の未来について、議論をおこないました.

九州建築新人賞　創設記念公演

「九州の建築の未来」

日時　：9月6日（水）　17：30～19：30

会場　：九電ビル「共創館」3F　Aカンファレンス

参加人数；90名

例会フライヤー

新商品紹介・説明会の様子

福岡地域会役員会（第3回）

■日時：2023 年8 月19 日（土曜日）17：00～18：30

■場所：JIA九州支部事務局

■参加人数：出席者　8　名　・　委任状　4　　名

第2回役員会議事録確認

■審議事項

特になし

■協議事項

1.建築倶楽部ゴルフコンペについて　　2.四季の会について

3..全国大会について　5.その他

■報告事項　1.　会長報告　2.　九州支部長報告　3. 事業室報告

4. 企画運営室報告

5. その他

行政連絡

福岡建築行政研究会台18回定例会　開催

日時：9月1日　15：30～17：00　場所：天神ビル　11階

令和4年度の事業報告と決算報告及び、令和5年度の事業計画（案）と予算（案）についての説明と福岡市住宅都市局組織編成の説明が行われた。

例会の様子

例会の様子

2023 建築セミナー実行委員会　第2回

日時：9月14日　木曜日　18：00～19：00
場所：宮崎ガスリビング
参加人数：7名

議案
・講師からの要望によるセミナー開催時期の変更について
　変更案
　当初2022年の11月予定のセミナーを2022年12月～2023年1月くらいに延期してはどうか。
　→ 協議の結果,候補日として
　・2024年 1月13日（土）～14日（日）
　・2024年 1月27日（土）～28日（日）
　・2024年 2月 3日（土）～ 4日（日）
　　上記３案を講師予定者の皆様へ打診し、日程を調整する事とする。

宮崎地域会例会　第3回

日時：9月14日　木曜日　19：00～20：30
場所：宮崎ガスリビング
参加人数：正会員　4名　協力会員　3名
メインプログラム
　注文の多い建築料理店　「ゆうぼく人」
　代表　川添 英司 氏

　プロフィール
　・1969年 1月21日　宮崎県延岡市生まれ
　・1991年　宮崎大学卒業
　・1992年　みつくぼ建築設計事務所勤務
　・2002年　みつくぼ建築設計事務所退社
　・2004年　ゆうぼく人設立
　受賞歴
　・第１回みやざき木の家コンクール　最優秀賞
　・第16回木材活用コンクール　木材活用特別賞）
　・第18回木材活用コンクール　木材活用特別賞
　・2015ウッドデザイン賞（DKB）
　・2022ウッドデザイン賞（宮崎キネマ館）

□ 宮崎北聖書キリスト教会（新築）…設計監理＋直営施工

□ よしかわクリニック（新築）…設計監理

□ 宮崎キネマ館（リノベーション）…設計監理＋直営施工

□ 家具や遊具のデザイン＆製作、商品開発

※川添氏は以前勤務していた事務所の後輩で、独立して以来久しぶりに話を聞く機会を得た。
色々な事をやっていると噂には聞いていたが、彼の仕事は結構多岐に渡り、設計者の範疇には収まっていない。
彼の性分をある程度知る元事務所の先輩としては、一抹の不安も覚えたが、今後とも頑張り続けて欲しいと願う。

久壽米木

JIA25年賞現地調査

7月10日に25年賞の現地調査を行いました。（鰺坂、岩田、宮﨑）（1931年竣工）

対象は屋久島の屋久杉自然館（1989年竣工・設計：古市徹雄氏）

以下所見

設計者は昭和 63 年にコンペによって古市徹雄に決定し、統括・展示を乃村工藝社が担当した。建物名称は翌年の平成元年に公募により「屋久島自然館」となり、同年 10 月に開館した。

屋久島自然館は古市徹雄の独立後の処女作である。古市氏は新建築の紙面の中で「建築・設備・展示など各工事のスタッフ全員が私を含め近い世代で、大変楽しく情熱にあふれた仕事が出来た。」と語っている通り、正面からこの建築と向き合って造り上げた。また、現館長が建設当時から関わり古市氏健在のうちは、近年まで交流もあり良好な関係を保っている。それゆえ運営する方も、この建築に誇りをもって管理されてきたといえる。

エントランスから進むと、左右の二つの鉄筋コンクリート造の円筒形展示室に挟まれた屋久杉で造られた木造展示空間へまず導かれる。展示空間は二層で、中央の木造展示空間内の階段で下階の展示への動線が確保され、来館者が其々の展示空間へ自由にアクセスが可能である。鉄筋コンクリート造の円筒形展示室の一方は「屋久杉探検館」として 1660 歳の屋久杉をシンボルに屋久杉利用の歴史を紹介し、他方は「自然パノラマ館」の名で垂直分布のシオラマ展開により屋久杉をはじめ森林植生が紹介されている。木造展示空間の開口からは、雄大な東シナ海が広がり、遠くに種子島が見える。その木造展示空間の吹抜けにある階段は朱塗りした入れ子フレームのデザインで、その階段を降りると下階の円筒形展示室収蔵庫等へつながる。朱塗りフレームと屋久杉無垢材の木骨フレームとの対比が美しく、下足して素足で触れる屋久杉の床の木煉瓦や屋久杉の木製建具等々、エントランスホールの木造建築自体が屋久杉の展示物となっている。現在、屋久杉の伐採が禁じられており、中央の木骨フレームは伝統的な仕口、継手を用い宮大工の手によるもので、二度と造る事の出来ない貴重な建築物である。

雨が多く樹林の中にあるため、過去に雨漏れ対策の工事を施し、また博物館ゆえに内部の模様替え工事を行いこれまで 34 年間使い続けられてきた。また、著名な山師である高田久夫氏からの依頼で江戸時代の土埋木を山から出し屋久杉自然館で展示保管する事となり、玄関アプローチの一部に仮設的な屋根をかけてあるものの、基本的には完成時の建物のまま良好に維持管理されている。今後も全体的な防水工事や、外壁改修工事などが考えられるが、屋久島町で計画的に管理されている。

会員作品見学会

7月23日に「えがお桜が丘・宮崎響平ジュニア会員」の作品見学会を開催しました。重度障害者支援施設で木造2階建て約180㎡の規模です。

内覧会のご案内

弊社で設計・監理を務めておりました、「えがお桜ヶ丘」が竣工を迎えます。
お施主様のご厚意により内覧会を開催する運びとなりましたのでご案内申し上げます。
問われた施設にという要望に対して、平面・断面計画や1層分の階高を利用した木造トラスなど様々な工夫をして応えました。
日頃よりお世話になっております皆様にご覧頂き、感想やご批評いただけますと幸いです。

期日　：2023年7月23日（日）10:00~12:00、13:00~17:00
場所　：鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘5丁目15-4
お問い合わせ　：ms_design_kyohei@air.ocn.ne.jp（宮崎）
・駐車場は近隣に確保しておりますが、台数が少ないため上記メールアドレスにお越しになるお時間をお送りいただけますと幸いです。駐車場の場所を返信にてご案内いたします。

用途　：障害者支援施設
設計・監理　：株式会社 エムズ・デザイン工房
構造設計　：合同会社 円海構造設計
施工　：株式会社 N.J 建設
敷地面積　：339.95㎡
延床面積　：179.59㎡
構造　：木造
階数　：2階建

鹿児島大学前期合同講評会

8月11日の鹿児島大学との共催で前期合同講評会を開催しました。
ゲストクリティークはツバメアーキテクトの千葉、西川氏で
講演題目は「コンヴィヴィアリティのための建築」でした。
作品講評も会員と共に活発に行われ作品レベルも高く好評でした。
終了後に懇親会を行い、講師との対面での会話は特に若手会員に
とって刺激的で貴重な体験となったようです。

鹿児島地域会8月度　合同例会、意見交換会

8月18日に８月度の合同例会、意見交換会を開催いたしました。
例会では支部役員会内容報告、地域会事業今後のスケジュール確認
協議事項としてKIRA国際交流、建築塾の予算及び内容、建築展
シネマ祭の協議等を行いました。
その他として　四季の会、九州新人賞、登録建築家更新の告知
も合わせて行いました。
意見交換会では、JIA会員、協力会、講師を含め参加者の交流を深
め地域会事業への協力への感謝、今後のご協力依頼など活発で楽し
い意見交換となりました。

JIA鹿児島オープンレクチャー

8月18日に第11回オープンレクチャーを開催いたしました。
今回は種子島を拠点に活躍さている岩下真奈美氏に
「建築を透かして見る」と題して講演していただきました。
岩下氏のイタリア時代の作品やエピソードを交え、当時の
原図（ロットリング）も公開され、会員一同、真剣に興味深く
拝聴させていただきました。
参加者はJIA会員、学生や一般の方とZoom配信も行い、質疑
も活況で大変充実したレクチャーとなりました。
終了後は懇親会にて、岩下氏と熱き意見交換が交わされました。

令和5年度鹿児島県設計団体懇談会

9月13日に鹿児島県設計団体懇談会に出席しました。（下山、宮崎）JIAの他、建築士会、JASCA、建築士事務所協会の4団体の参加です。主に、来年度の建築士会全国大会（鹿児島）の協力、基準法省エネ改正に伴う建築士サポート体制、業務報酬基準改正についての議論が交わされました。JIAからは今年度の活動、建築塾、九州新人賞の広報を行いました。

第23回建築塾inいぶすき準備ミーティング

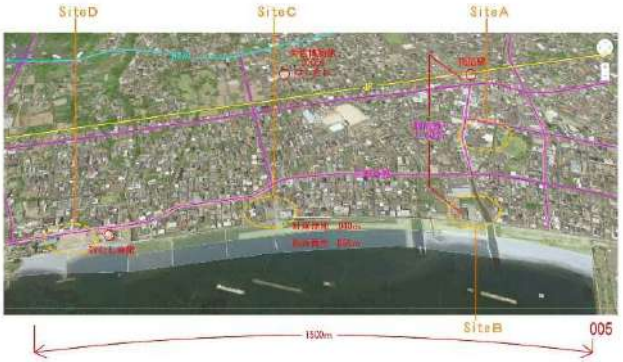
建築塾の準備ミーティングを8/7、8/30、9/11の3回Webにて開催いたしました。

JIA準備委員の他講師の高﨑氏、三谷氏、山下氏を交え計12名程で主に塾内容の協議、スケジュール等の協議をしました。

８月7日は塾課題の方向性議論及び課題決め。

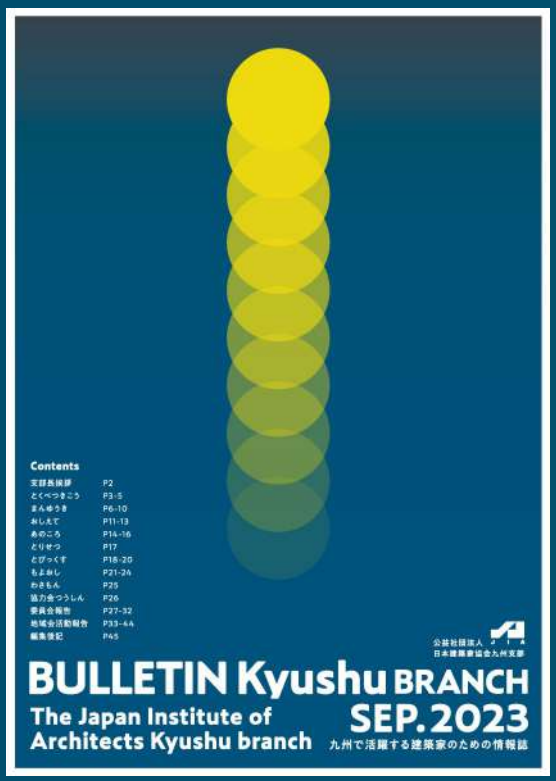
８月30日は詳細課題の具体的内容の決定。

9月11日は内容の最終確認及びの具体的スケジュールの決定。の議論を行いました。



編集後記

秋風が吹き、青空が広がる中、朝晩は肌寒くなり、急に秋の気配を感じる季節になりました。

この場を借りて、今回も執筆を快く受けていただいた皆様、支部長漫遊記に登壇いただいた若手建築家の皆様、準備にご尽力いただいた佐賀地域会の皆様に厚く御礼申し上げます。「九州建築新人賞」の審査員である塩塚隆生さん、田中俊彰さん、柳瀬真澄さんには、「九州建築新人賞に期待すること」をテーマに執筆いただきました。未来を担う若手建築家を発掘し、そこに建築批評の場が生まれ、九州の建築力向上となることを期待します。智原さんの新人賞記念イベントレポートも必読です。９月１５日佐賀で開催された支部長漫遊記最終回では佐賀市内メイン通りに面するカフェ風の会場で夜な夜な熱い支部長建築クリティークが行われました。自信作や設計思想に対する批評、激励そして同世代とのつながりを築くことは今後の大切な財産となることでしょう。登壇者のパーソナリティと会場の熱いライブ感を白濱さんに執筆いただきました。「おしえて」では九州工業大学の石塚先生に執筆いただきました。文中に先生の実直なお人柄を感じながら、Y-GSAや東日本大震災での豊富な経験による指導と幅広いカリキュラム、そして実施の場でよりよい建築をつくりだせる学生が増えてくることと思います。「あのころ」ではJIA黎明期における貴重なお話を豊川さんが執筆されました。当時の熱量のある建築家資質向上活動や積極的な国際交流活動に敬意を表しながら、先輩方がしっかりとした九州支部の基礎を築いたことを改めて教えていただきました。また時を超えて続く家族の絆が優しく心に残ります。「とりせつ」では田中さんに教育委員会やCPD評議会についてわかりやすく紹介いただきました。（仮称）JIA・建築フィールドトリップなど今後、学べる機会が増えそうで楽しみです。JIA教育コンテンツを一般市民や子どもたちに広げていく活動を一歩ずつすすめていければと思います。人を動かすのは人の熱い思いです。市民の熱い思いと誇りがホール再開に動き始めるのではないでしょうか。私も吉永さんの熱い思いに共感しました。ブルテン掲載で多くの会員に伝わり、大きな力に変わっていければと思います。３年ぶりの持ち出し役員会、地域交流会IN長崎の様子を一丸さんに執筆いただきました。バークガフニ氏の講演は大変ユニークで講演後は皆、長崎居留地ファンになったのではないでしょうか。風情ある会場での懇親会、次日のエクスカーション、長崎地域会の皆様の暖かいおもてなしで充実した思い出に残る２日間となりました。福田さんにJIA修学旅行記を執筆いただきました。先輩方の面倒見の良さは仕事やJIA活動以外の時のほうがわかりやすいかもしれません！。「わさもん」では新入会員の塚川さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。これからもよろしくお願いいたします。鹿児島地域会協力会の山﨑さんに協力会つうしんを執筆いただきました。いつもJIAをサポートいただきありがとうございます。次号は通常記事に加え、JIA建築家大会2023東海in常滑、建築塾IN指宿、エコルサポート等を掲載予定です。

広報副委員長　有吉兼次